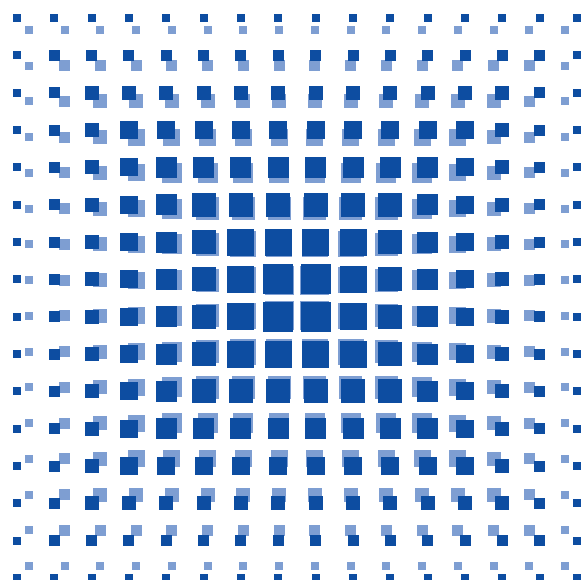
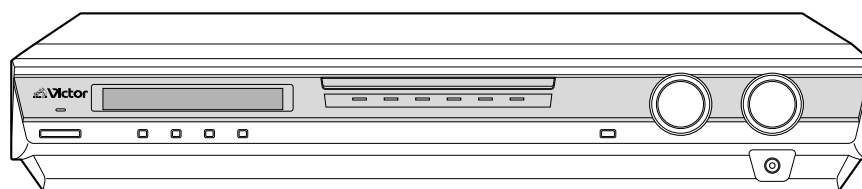
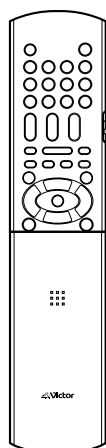
AUDIO/VIDEO コントロールアンプ

型名 AX-F10

Audio/Video Control Amplifier
AX-F10

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4～ 6ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

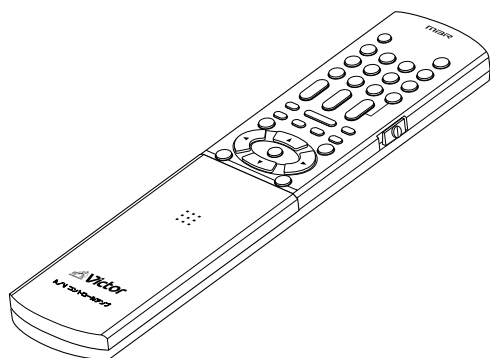
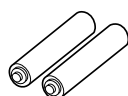
LVT1164-001B

はじめに

本機の特長

高音質デジタルアンプ「DEUS」を搭載
デジタルパワーアンプの「小型」「軽量」「高効率」という特長を活かしながら、アンプ内で生成されたデジタル信号とアナログ信号をそれぞれフィードバックする「ハイブリッド・フィードバック」技術により、高音質オーディオ特性を実現させました。
高音質デジタルパワーアンプ固有の、デジタル信号処理技術のみでは解決できない問題点をアナログ信号処理技術を加えることによって解決し、これにコア技術を加え、長年にわたり培ってきたハイエンド・オーディオアンプ設計技術を応用しました。
このデジタルアンプの名称を、当社の普遍的な高音質サウンドに対する姿勢を表現した言葉の頭文字を取り「DEUS(Digital Emotional Universal Sound)」と命名しました。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン(RM-SAXF10)(1個)

単3形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

- このほかに、取扱説明書(本書)や保証書が添付されています。

本機の置き場所について

故障などを防止するため、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこりの多いところ
- 風通しの悪い狭いところ
- バランスの悪い不安定なところ
- 直射日光が当たるところ
- 熱器具の近く
- 極端に寒いところ
- 寒暖の差が激しいところ
  本機の使用環境温度は−5°C〜35°Cです。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となったりします。
- 磁気を発生するところ
- OA機器やけい光灯のすぐそば
- 振動の激しいところ

本体のお手入れ

パネル操作面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。汚れがひどいときは、水で布をしめらせるか、中性洗剤を少し布に付けてふき、あとで**からぶき**してください。
シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げを損なうおそれがあります。

■ 音楽を聞くときのエチケット

音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

お使いになる前に　ページ

ふだんの使いかた　ページ

調節・設定する　ページ

サラウンド　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

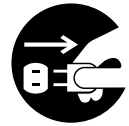
行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜きます。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

接触禁止

感電の原因となります。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

禁止

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

⚠警告

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

電池は放置しない。

電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災·感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm 以上離す。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm 以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

次のような所に設置すると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや、熱器具の近くなど高温になるところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるところ
- 不安定なところ
- 振動の激しいところ

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1〜2時間待ってから電源を入れてください。

使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

⚠注意

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。

次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

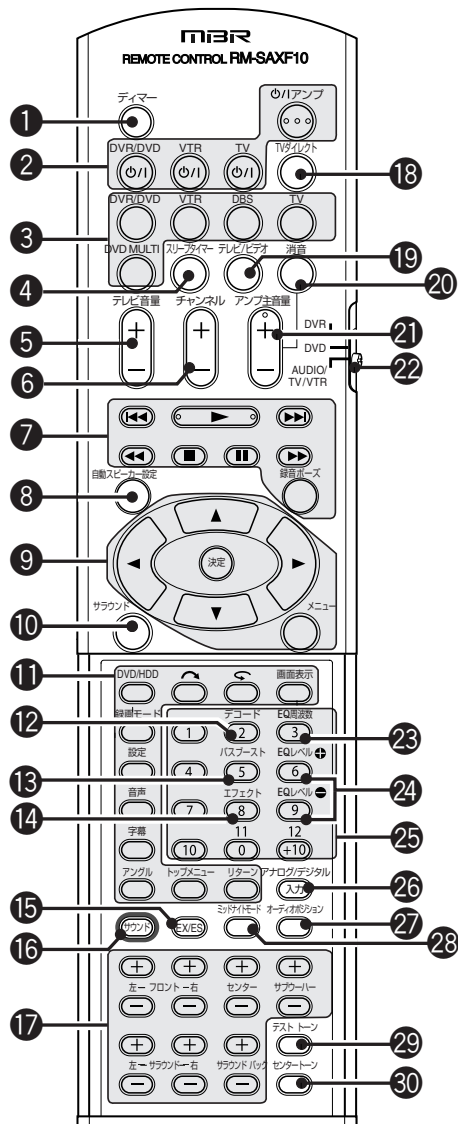
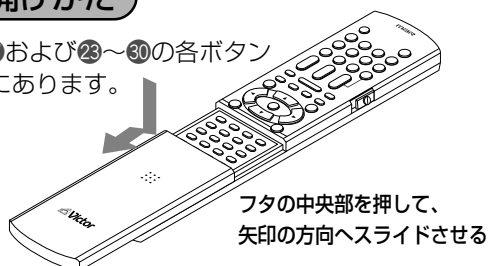
もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

各部の名前 —( )内のページに説明があります。—

リモコン

（フタを開けたところ）

フタの開けかた

上図の⓫〜⓱および㉓〜㉚の各ボタンは、フタの中にあります。

❶ **ディマーボタン**（➡ ***20*** ページ）

❷ **電源ボタン**（➡ ***18***、***44***〜***46*** ページ）
- ⏻/I アンプボタン
- DVR/DVD ⏻/Iボタン
- VTR ⏻/Iボタン
- TV ⏻/Iボタン

❸ **ソース（音源）機器選択ボタン**（➡ ***18***、***22*** ページ）
- DVR/DVDボタン
- VTRボタン
- DBSボタン
- TVボタン
- DVD MULTI（マルチ）ボタン

❹ **スリープタイマーボタン**（➡ ***20*** ページ）

❺ **テレビ音量（＋/－）ボタン**（➡ ***44***、***45*** ページ）

❻ **チャンネル（＋/－）ボタン**（➡ ***44***、***45*** ページ）

❼ **DVDレコーダー/プレーヤー/ビデオデッキ操作ボタン**（➡ ***44***〜***46*** ページ）
- ▶▶I（次スキップ）ボタンとI◀◀（前スキップ）ボタン
- ▶（再生）ボタン
- ▶▶（早送り）ボタンと◀◀（早戻し）ボタン
- ■（停止）ボタン
- II（一時停止）ボタン
- **録音ポーズ**ボタン

❽ **自動スピーカー設定ボタン**（➡ ***24***、***25*** ページ）

❾ **DVDメニュー操作ボタン**（➡ ***44***、***46*** ページ）
- メニューボタン
- カーソル（▲、▼、►、◄）
- 決定ボタン

❿ **サラウンドボタン**（➡ ***39*** ページ）

⓫ **DVDレコーダー/プレーヤー操作ボタン**（➡ ***44***、***46*** ページ）
- DVD/HDDボタン
- ⤼（30秒スキップ）ボタン
- ⤺（チョット見バック）ボタン
- 画面表示ボタン
- 録画モードボタン
- 設定ボタン
- 音声ボタン
- 字幕ボタン
- アングルボタン
- トップメニューボタン
- リターンボタン

⓬ **デコードボタン**（➡ ***21*** ページ）

⓭ **バスブーストボタン**（➡ ***22*** ページ）

⓮ **エフェクトボタン**（➡ ***41*** ページ）

⓯ **EX/ESボタン**（➡ ***42*** ページ）

⓰ **サウンドボタン**（➡ ***21***、***22***、***41***、***42*** ページ）

⓱ **スピーカー出力調節ボタン**（➡ ***41*** ページ）
- フロント･左（＋/－）ボタン
- フロント･右（＋/－）ボタン
- センター（＋/－）ボタン
- サブウーハー（＋/－）ボタン
- サラウンド･左（＋/－）ボタン
- サラウンド･右（＋/－）ボタン
- サラウンド バック（＋/－）ボタン

⓲ **TVダイレクトボタン**（➡ ***22*** ページ）

⓳ **テレビ/ビデオボタン**（➡ ***44***、***45*** ページ）

⓴ **消音ボタン**（➡ ***20*** ページ）

㉑ **アンプ主音量（＋/－）ボタン**（➡ ***18*** ページ）

㉒ **モード切換スイッチ**（➡ ***18***、***22***、***44***〜***46*** ページ）

㉓ **EQ（イコライザー）周波数ボタン**（➡ ***42*** ページ）

㉔ **EQ（イコライザー）レベル（⊕/⊖）ボタン**（➡ ***42*** ページ）

㉕ **数字ボタン**（➡ ***44***〜***46*** ページ）

㉖ **アナログ/デジタル入力ボタン**（➡ ***18***、***21*** ページ）

㉗ **オーディオポジションボタン**（➡ ***21*** ページ）

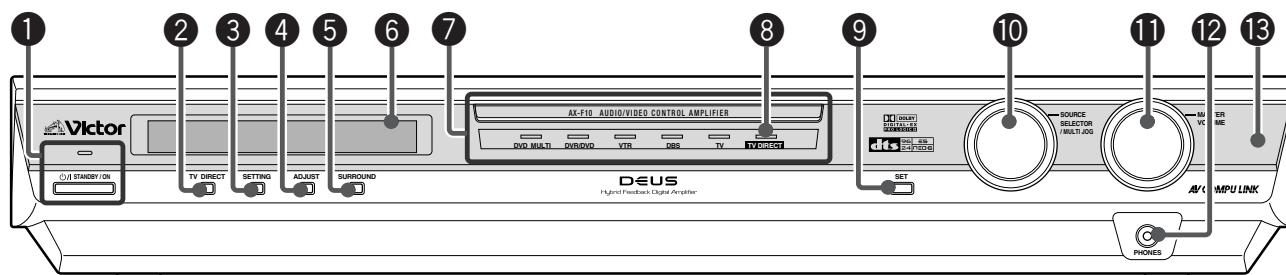
㉘ **ミッドナイトモードボタン**（➡ ***42*** ページ）

㉙ **テスト トーンボタン**（➡ ***41*** ページ）

㉚ **センタートーンボタン**（➡ ***41*** ページ）

各部の名前(つづき)　—( )内のページに説明があります。—

本体

前　面

❶ ⏻/I STANDBY/ONボタンとスタンバイランプ
(➡ ***19*** ページ)
電源の「**入**」⟺「**切**」をするとき押します。
スタンバイランプは、電源を「**切**」にすると赤く点灯し、電源を「**入**」にすると消えます。

❷ **TV DIRECTボタン**(➡ ***22*** ページ)

❸ **SETTINGボタン**(➡ ***24***、***26*** ページ)
スピーカーの設定など詳細な設定をするとき使います。

❹ **ADJUSTボタン**(➡ ***33***、***39*** ページ)
音量・音質を調節するとき使います。

❺ **SURROUNDボタン**(➡ ***39*** ページ)
サラウンドモードを選ぶとき使います。

❻ **表示窓** (➡ ***9*** ページ)

❼ **ソース(音源)ランプ、イルミネーションランプ**
(➡ ***18***、***19***、***22*** ページ)
現在選ばれているソース(音源)を表示します。
イルミネーションランプは、電源を「**入**」にすると点灯します。
- DVD MULTI
- DVR/DVD
- VTR
- DBS
- TV

❽ **TV DIRECTランプ**(➡ ***22*** ページ)

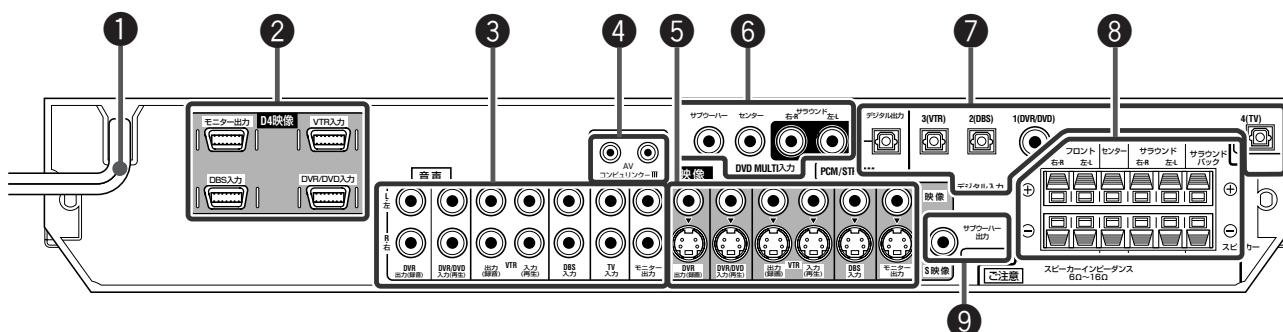
❾ **SETボタン**(➡ ***26***、***33*** ページ)

❿ **SOURCE SELECTOR/MULTI JOGつまみ**

⓫ **MASTER VOLUMEつまみ**(➡ ***19*** ページ)
主音量を調節します。

⓬ **PHONES端子**(➡ ***19*** ページ)
ヘッドホンを差し込みます。

⓭ **リモコン受光部**(➡ ***17*** ページ)

背　面

❶ **電源コード**(➡ ***17*** ページ)
家庭用のコンセント(交流 100V)に接続します。

❷ **D4映像入出力端子**(➡ ***13***〜***16*** ページ)
D端子付きのビデオ機器を接続します。
入力端子:VTR入力、DBS入力、DVR/DVD入力
出力端子:モニター出力

❸ **音声入出力端子**(➡***12***、***14***〜***16*** ページ)
入力端子:DVR/DVD入力(再生)、VTR入力(再生)、DBS入力、TV入力
出力端子:DVR出力(録音)、VTR出力(録音)、モニター出力

❹ **AVコンピュリンク-Ⅲ端子**(➡ ***43*** ページ)
他のビクター製ビデオ機器のAVコンピュリンク端子と接続します。

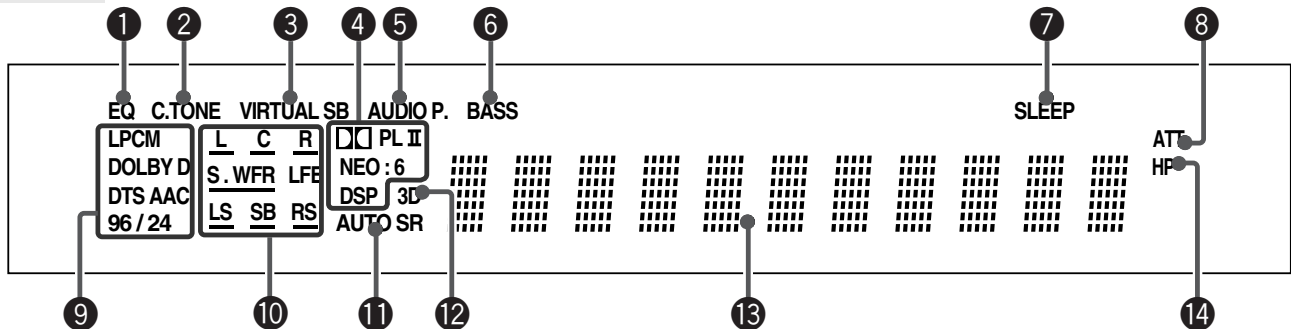
❺ **映像入出力端子**(➡ ***13***〜***16*** ページ)
入出力ともに、コンポジット端子とS端子があります。
入力端子:DVR/DVD入力(再生)、VTR入力(再生)、DBS入力
出力端子:DVR出力(録画)、VTR出力(録画)、モニター出力

❻ **DVD MULTI入力(5.1チャンネルアナログ入力)端子**
(➡ ***12*** ページ)
アナログ5.1チャンネル出力端子のあるDVDレコーダー/プレーヤーと接続します。フロントチャンネルはDVR/DVD入力(再生)端子に接続します。

❼ **デジタル入出力端子**(➡ ***12***、***14***〜***17*** ページ)
外部機器のデジタル音声端子と接続します。同軸デジタル端子と、光デジタル端子があります。
入力端子:1(DVR/DVD)、2(DBS)、3(VTR)、4(TV)
出力端子:デジタル出力(PCM/STREAM)

❽ **スピーカー端子**(➡ ***11*** ページ)
スピーカーを接続します。

❾ **サブウーハー出力端子**(➡ ***11*** ページ)
アンプ内蔵サブウーハーを接続します。

表示窓

❶ EQ（イコライザー）表示（➡ ***35***、***42*** ページ）

❷ C. TONE（センタートーン）表示（➡ ***35***、***41*** ページ）

❸ VIRTUAL SB（バーチャルサラウンドバック）表示（➡ ***29***、***40*** ページ）
バーチャルサラウンドバックを使っているとき点灯します。

❹ サラウンドモード表示（➡ ***19***、***37***、***38*** ページ）
- PL II表示
- NEO：6表示
- DSP表示

❺ AUDIO P.（オーディオ ポジション）表示（➡ ***21*** ページ）

❻ BASS（バス）表示（➡ ***22***、***35*** ページ）
バスブーストを使っているとき点灯します。

❼ SLEEP（スリープ）表示（➡ ***20*** ページ）
おやすみタイマーを使っているとき点灯します。

❽ ATT（アッテネーター）表示（➡ ***35*** ページ）
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

❾ デジタル音声フォーマット表示（➡ ***21***、***37*** ページ）
LPCM（リニアピーシーエム）表示、DOLBY D（ドルビー デジタル）表示、DTS表示、AAC表示、DTS 96/24表示

❿ スピーカー表示/音声チャンネル信号
入力している音声チャンネル信号と、スピーカーの動作状態に合わせて点灯します。下の「スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について」をご覧ください。

⓫ AUTO SR（オートサラウンド）表示（➡ ***32*** ページ）
オートサラウンドが「ON」のとき点灯します。

⓬ 3D（スリーディー）表示（➡ ***19***、***38***、***39*** ページ）
3D HEADPHONE（スリーディーヘッドホン）、3D PHONIC（スリーディーフォニック）を使っているとき点灯します。

⓭ 文字表示部
サラウンドモード名やソース（音源）名などを表示します。

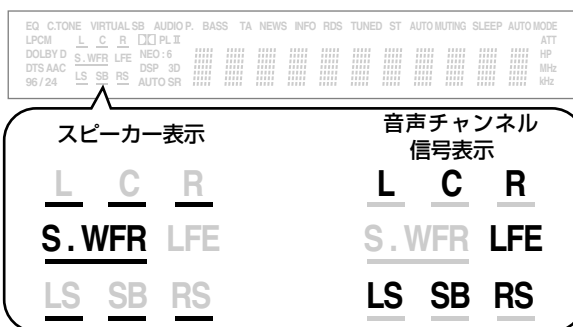
⓮ HP（ヘッドホン）表示（➡ ***19*** ページ）
ヘッドホンを使っているとき点灯します。

スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について

スピーカーと入力している音声チャンネル信号を表示します。

スピーカー表示

音声が出力されているスピーカーのスピーカー表示が点灯します。

- サブウーハーの設定を「YES（イエス）」にしているときは（➡ ***27*** ページ）、S.WFR（サブウーハー）表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカー表示は、スピーカー設定や選択中のサラウンドモードに有効な表示が点灯します。

音声チャンネル信号表示

- **L**　：左フロントチャンネル
- **R**　：右フロントチャンネル
- **C**　：センターチャンネル
- **LS**　：左サラウンドチャンネル
- **RS**　：右サラウンドチャンネル
- **SB**　：サラウンドバックチャンネル
- **S**　：モノラル信号が入力されたとき「S」部分が点灯します。（左右）サラウンドチャンネル
  LS SB RS
- **LFE**：LFE（Low（ロー） Frequency（フリケンシー） Effect（エフェクト））チャンネル

スピーカーを接続する

■接続するときのご注意

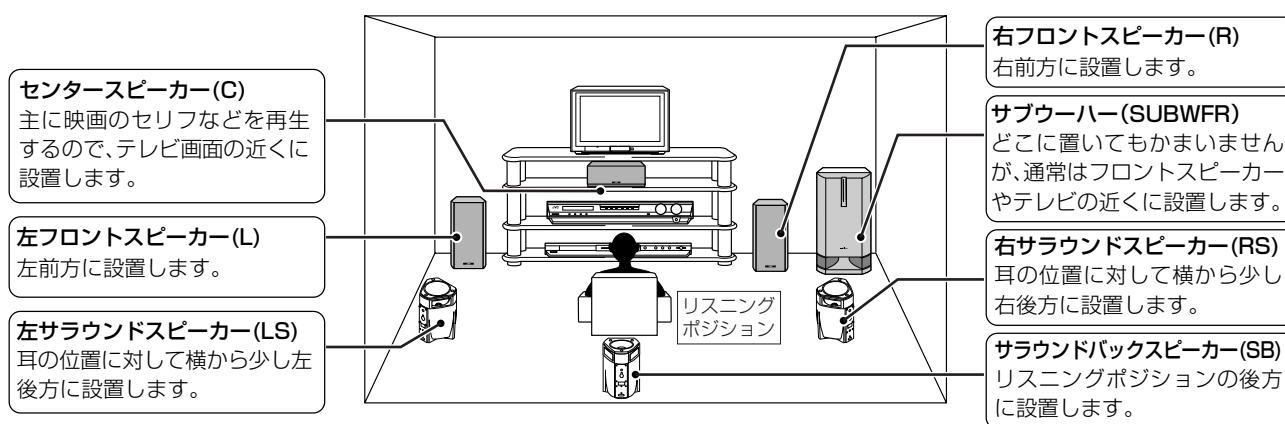
各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因になります。

■接続するスピーカーについて

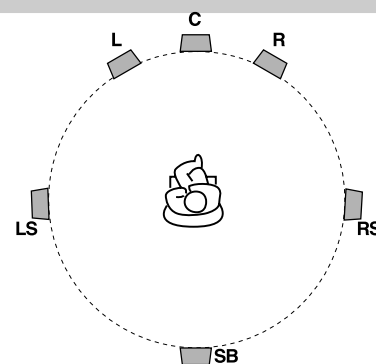
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは、6Ω～16Ωです。
ドルビーデジタルやDTSのDVDソフトを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーは、特性の揃ったスピーカーを使うことが理想的です。

■スピーカーの設置について

下の設置例を参考に、実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。
部屋の間取りなどで理想的な設置がむずかしいときでも、スピーカー設定を適切に行うことで音場の調節をすることができます。

理想的なスピーカー設置例（6.1ch設置のとき）

設置のポイント

- リスニングポジションを中心とした同一円周上に各スピーカーを設置するようにします。
- スピーカーからの音には指向性*がある場合があるので、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置します。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。

　* **指向性とは…**
　スピーカーは、一般にその正面で音が最もよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

■スピーカーの設置・接続のあとで

スピーカーの設置・接続のあとは、**スピーカーの設定**（➡ ***23*** ページ）や**出力レベルの調節**（➡ ***34*** ページ）をします。
本機では、このような設定や調節を、**自動スピーカー設定**（➡ ***24*** ページ）を使って行うこともできます。

お知らせ

- **自動スピーカー設定は、接続している機器によって発生するノイズのため適切に働かない場合があります。自動スピーカー設定を使うときは、本体に機器を接続する前におこなうか、または接続しているすべての機器（DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、テレビ、サブウーハーなど）の電源コードを抜いておいてください。スピーカーコード以外の接続機器のコードは、自動スピーカー設定のあとで接続してください。**

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを**本体背面**のスピーカー端子に接続します。スピーカーコードは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。
スピーカーの左右と極性(⊕と⊖)を間違えないように正しく接続してください。

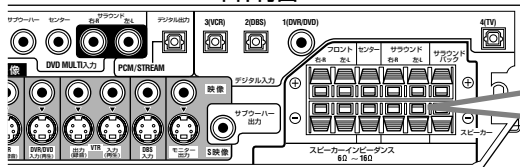
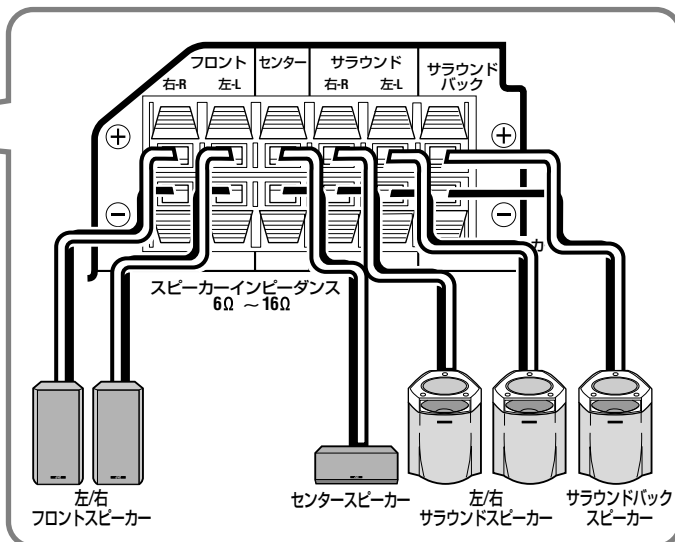
■サラウンドバックとバーチャルサラウンドバックについて

ドルビーデジタルEX信号、DTS-ES信号など、6.1チャンネルの音声信号を再生するときには、サラウンドバックスピーカーが必要です。サラウンドバックスピーカーが接続されていないときは、他のスピーカーを使ってサラウンドバック信号を再生できます。詳しくは「バーチャルサラウンドバックについて」(➡ ***29*** ページ)をご覧ください。

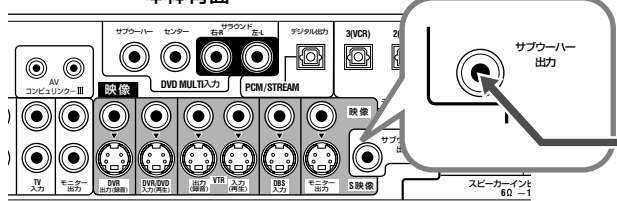
ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。**
  事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

お知らせ

- スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えると、音質やステレオ感がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いてしっかり接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■アンプ内蔵サブウーハーの接続

本機にアンプ内蔵サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音をお楽しみいただけます。
特に、ドルビーデジタルEX6.1ch、DTS-ES6.1chなどのマルチチャンネルソフトを再生すると、LFE(Low Frequency Effect:低域効果音)信号が再生され、映画館のような重低音が楽しめます。
アンプ内蔵サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード(市販)でサブウーハー出力端子に接続します。
本機ではサブウーハーを接続するだけで自動的に検出され、設定をしなくても音声が出力されるようになります。

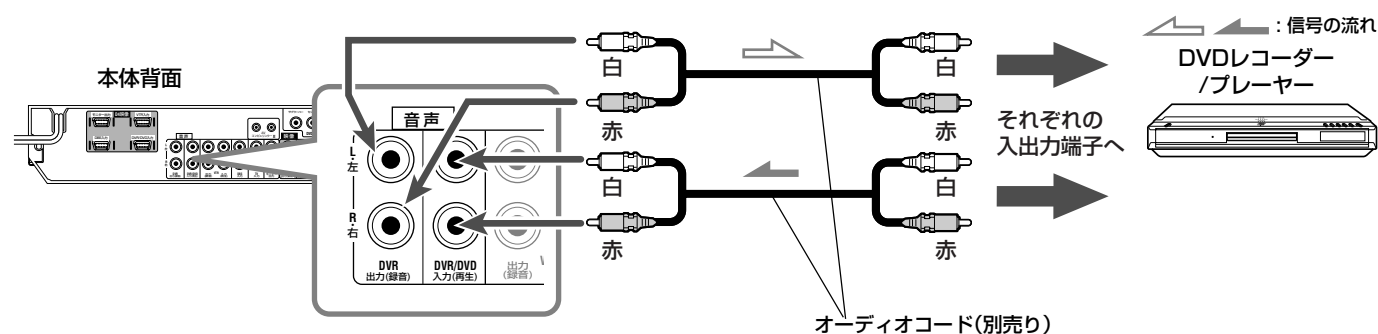
- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

DVDレコーダー/プレーヤーを接続する

本機とDVDレコーダー/プレーヤーを接続します。DVDレコーダー/プレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

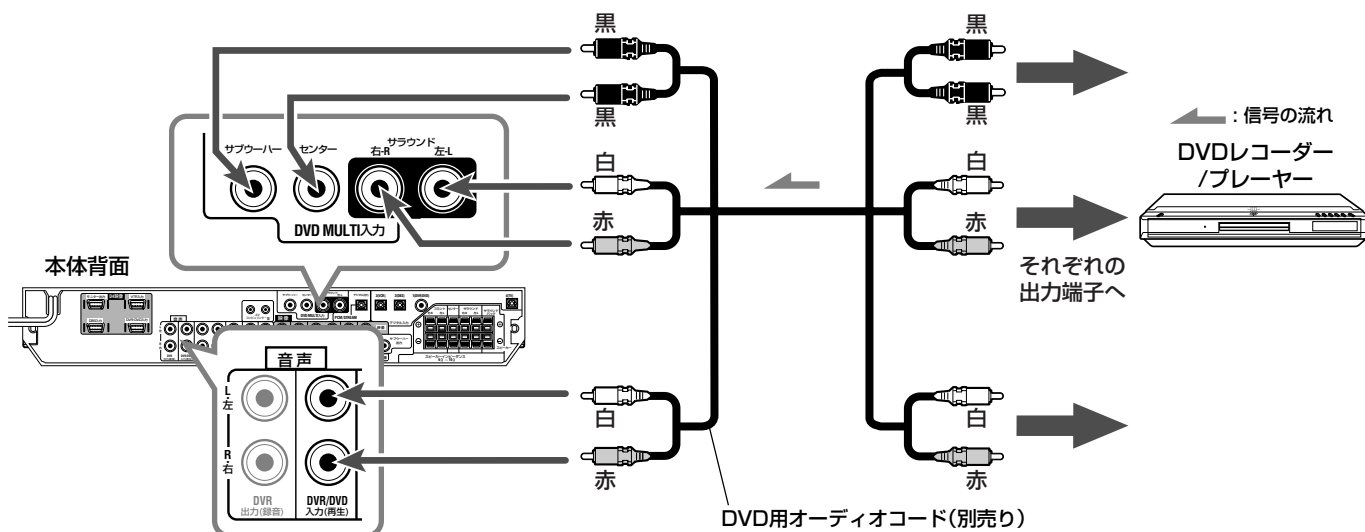
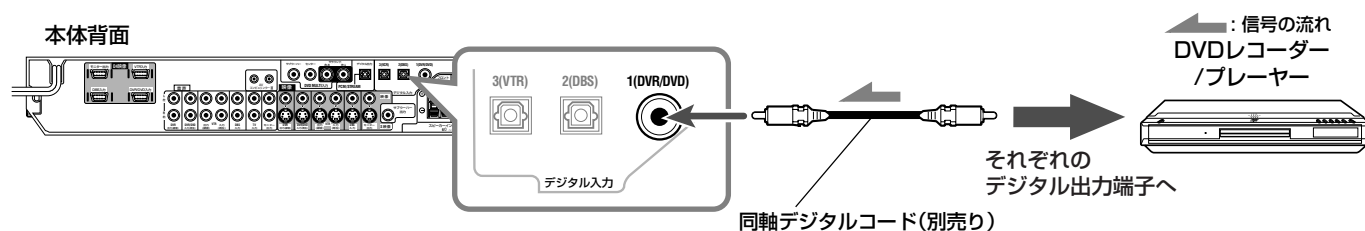
音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル録音することはできません。

■アナログ接続

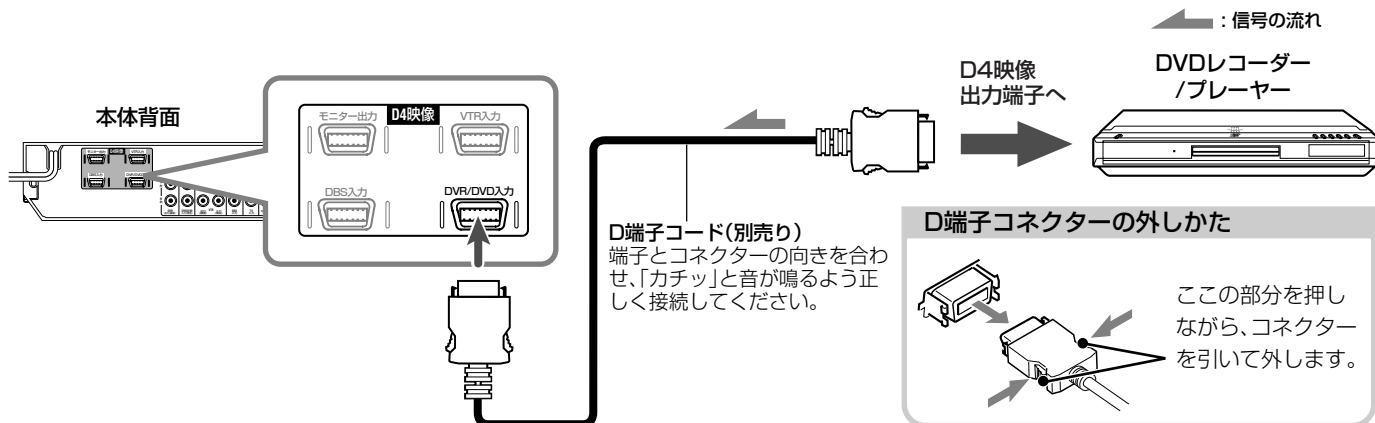
<アナログ2チャンネル接続>

<アナログ5.1チャンネル入力接続>

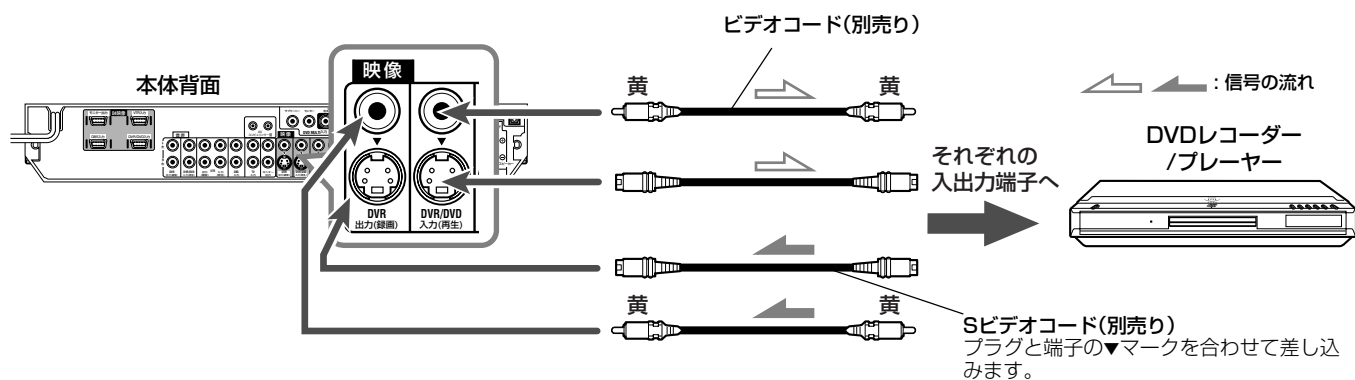
「DVD MULTI」をソース（音源）に選びます。

- ヘッドホンを使っているときは、入力信号のうち左右フロントチャンネル以外は出力されません。

■デジタル接続

- DVDレコーダー/プレーヤーを1（DVR/DVD）以外のデジタル端子に接続するときは、端子に割り当てられたソース（音源）を「DVR/DVD」に変更します（➡ ***31*** ページ）。

映像の接続

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します（➡ ***32*** ページ）。
本機に入力された映像信号をテレビで再生するときは、入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください。

■D4映像端子付のDVDレコーダー/プレーヤーとの接続

- コンポーネント映像端子付のDVDレコーダー/プレーヤーとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS110など）をお使いください。

■映像入出力またはS映像入出力端子付のDVDレコーダー/プレーヤーとの接続

D4映像端子の種類について

本機のD4映像端子はD4信号まで対応します。本機には、D1～D4映像入力を持つDVDレコーダー/プレーヤーやテレビなどを接続できます。D4映像端子の種類と対応信号の関係は下表のようになっています。

数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	ー	○	○
D2	ー	ー	○	○
D1	ー	ー	ー	○

映像接続について

本機にはD4映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子があります。以下の順でより高品位の画質をお楽しみいただけます。

D4映像端子：扱う映像信号はコンポーネント映像信号（色差信号とも言われ、映像信号を2種の色信号と輝度信号に分離した信号）と同じですが、信号フォーマットや縦横比などの情報も送れるのが特長です。

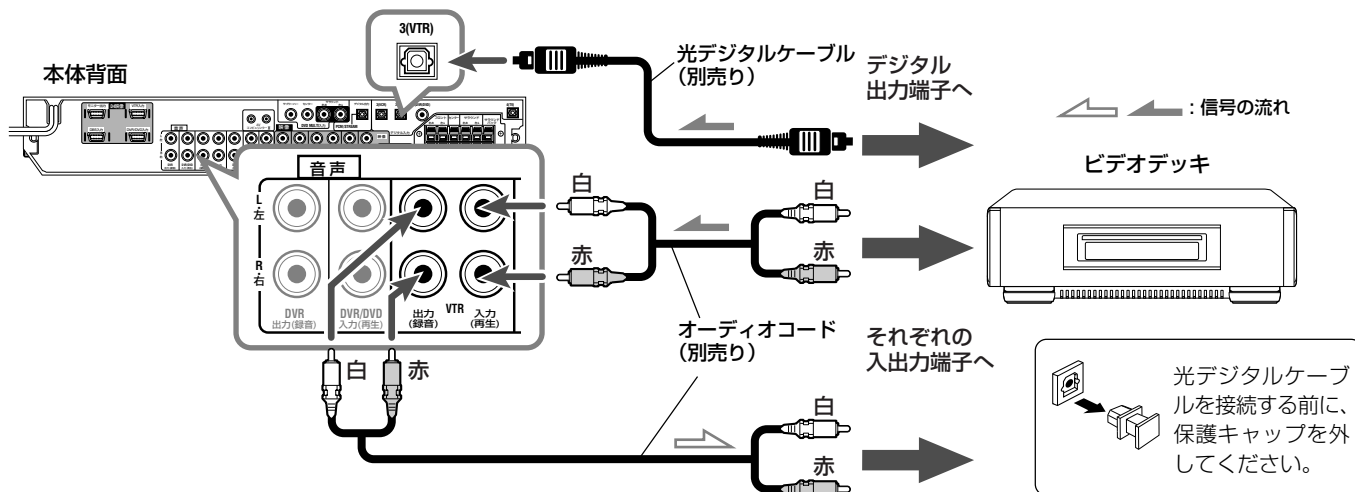
S映像端子：映像信号を輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した信号を扱います。

映像端子：従来の映像信号を扱います。

ビデオデッキを接続する

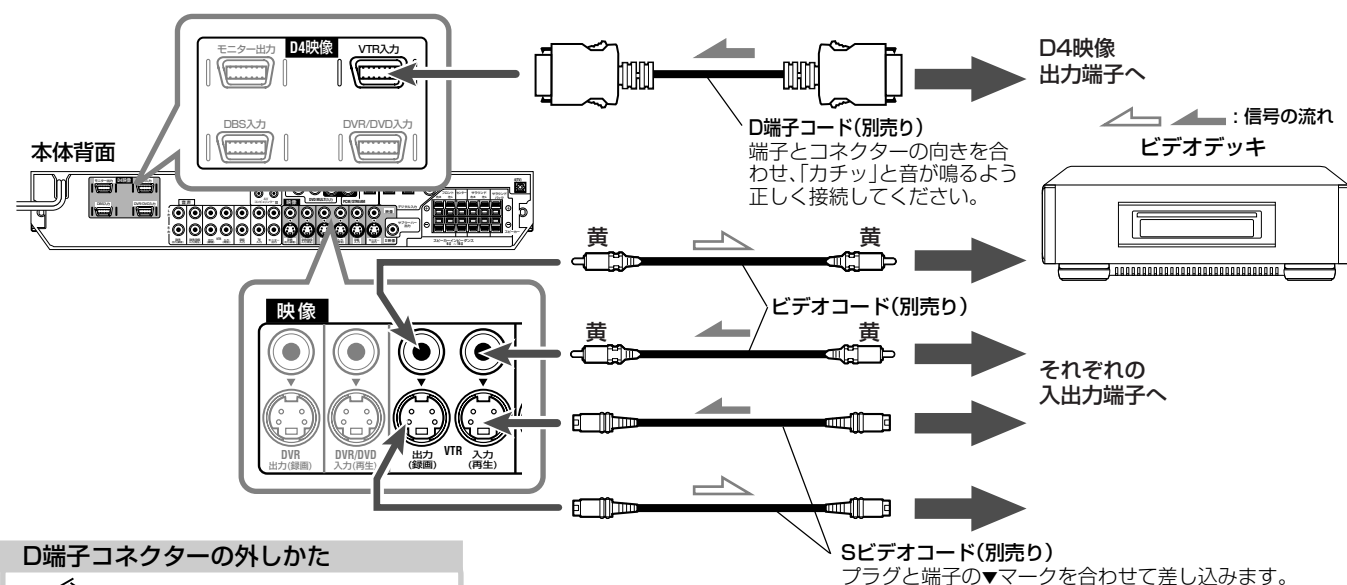
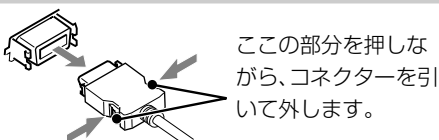
本機とビデオデッキを接続します。ビデオデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル録音することはできません。

• ビデオデッキを3（VTR）以外のデジタル端子に接続するときは、端子に割り当てられたソース（音源）を「VTR」に変更します（➡ ***31*** ページ）。

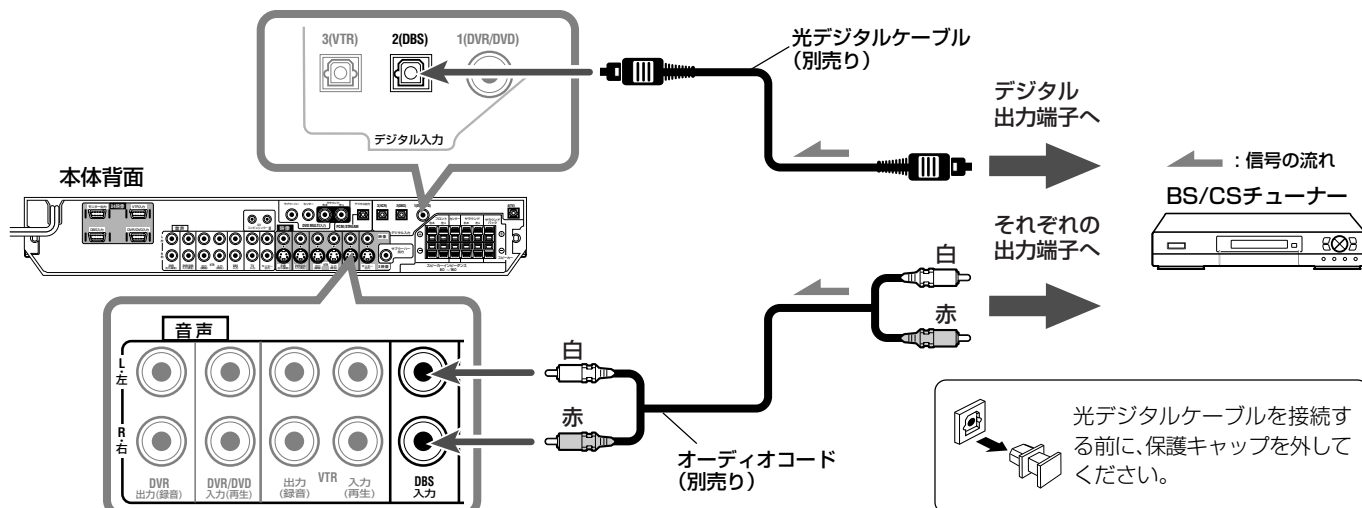
映像の接続

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します（➡ ***32*** ページ）。
本機に入力された映像信号をテレビで再生するときは、入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください。

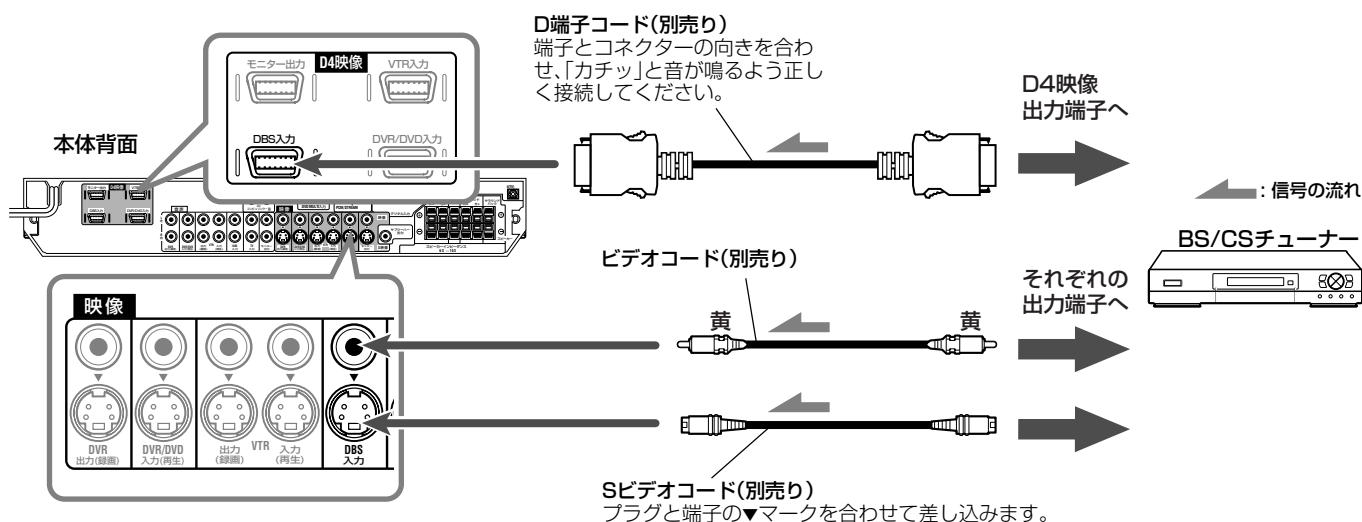
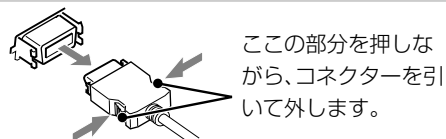
• コンポーネント映像端子付のビデオデッキとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS110など）をお使いください。

BS/CSチューナーを接続する

本機とBS/CSチューナーを接続します。BS/CSチューナーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

音声の接続

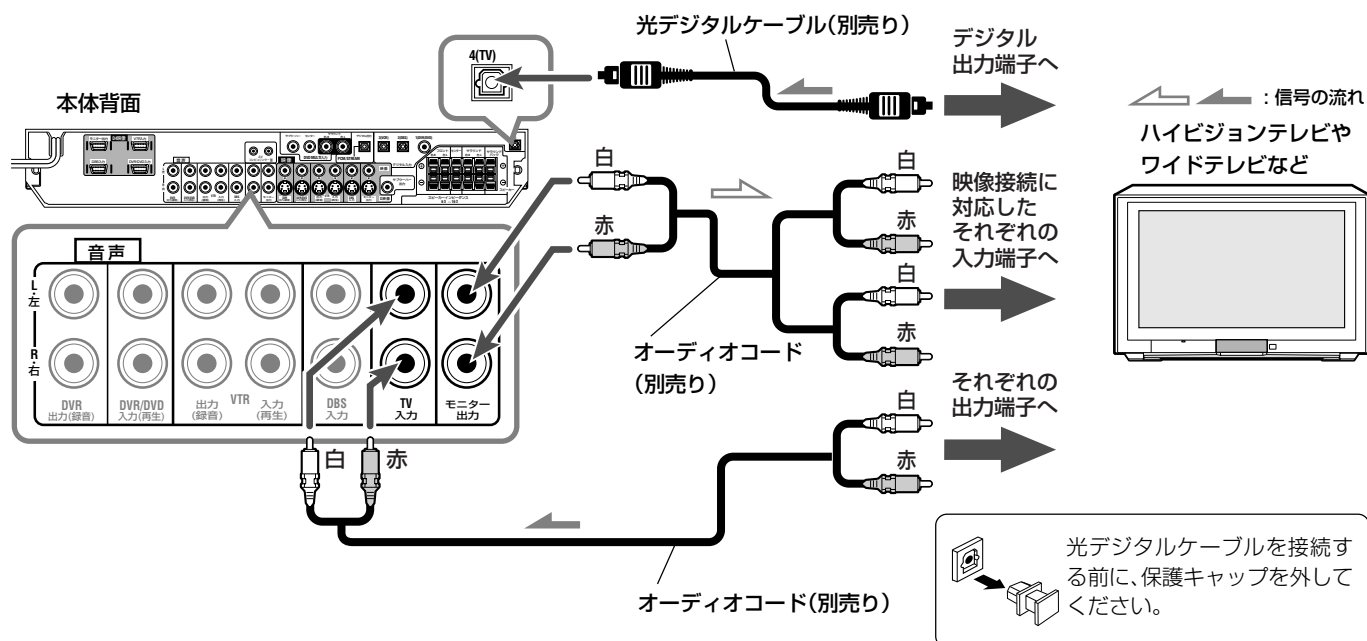
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル録音することはできません。

- BS/CSチューナーを2(DBS)以外のデジタル端子に接続するときは、端子に割り当てられたソース(音源)を「DBS」に変更します(➡ ***31*** ページ)。

映像の接続

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します(➡ ***32*** ページ)。
- コンポーネント映像端子付のBS/CSチューナーとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS110など)をお使いください。

テレビを接続する

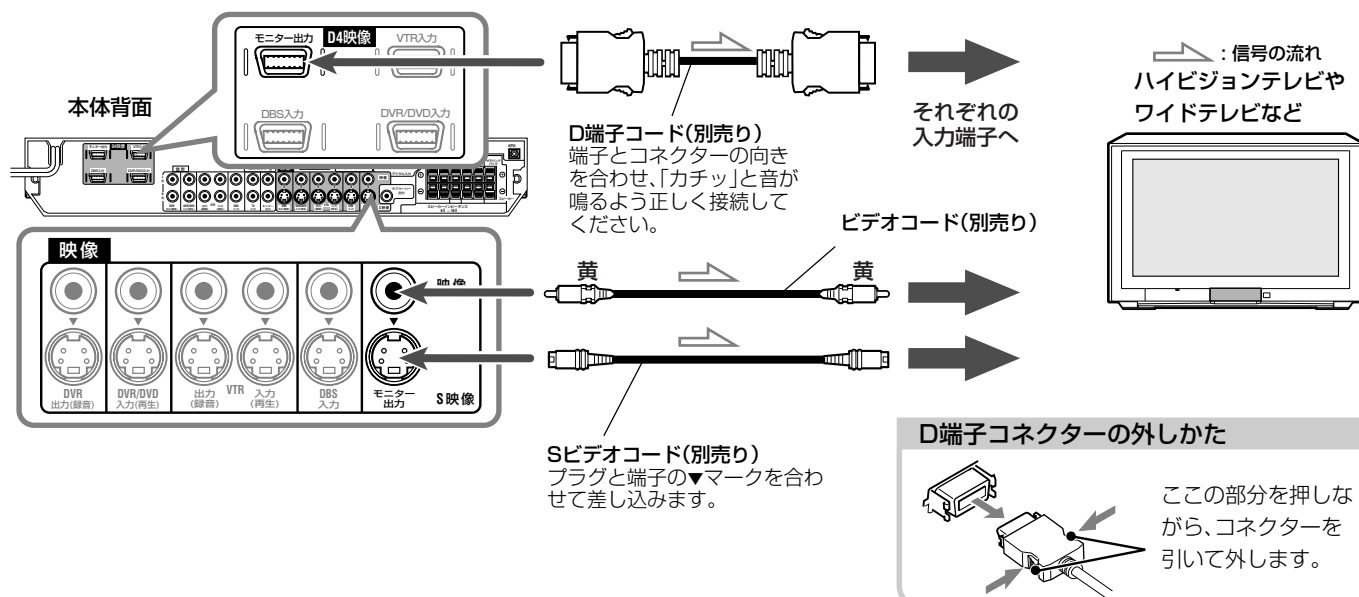
本機とテレビを接続します。テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

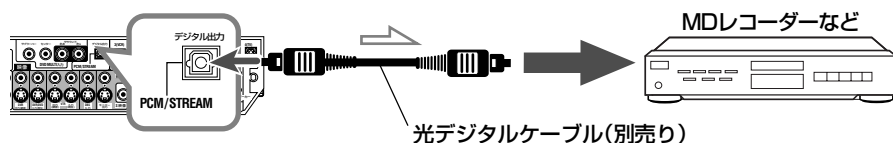
音声の接続

テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くための接続です。
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
AACサラウンドなど、より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。

- テレビを4(TV)以外のデジタル端子に接続するときは、端子に割り当てられたソース(音源)を「TV」に変更します(➡ ***31*** ページ)。
- モニター出力端子からの音声は、TVダイレクト(➡ ***22*** ページ)を使用しているときのみ出力されます。オーディオコード(CN-168G)などを使って、映像を接続しているテレビのそれぞれの端子に振り分けて接続してください。

映像の接続

本機に接続したビデオ機器(DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー)の映像を、テレビで見るための接続です。D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子からいずれかを選んで接続します。本機、ビデオ機器、テレビの映像端子の種類を合わせてください。

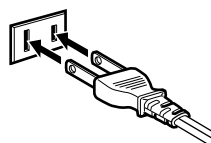
- コンポーネント映像端子付のテレビとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS110など)をお使いください。

デジタル音声を出力する

録音/録画機器にデジタル音声を出力するには、デジタル出力端子に接続します。
本機に入力された映像信号をテレビで再生するときは、入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください。

光デジタルケーブルを接続する前に、保護キャップを外してください。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

電源コードを接続すると、本体のスタンバイランプが点灯します。

家庭用コンセント
AC100V、50Hz/60Hz

お知らせ

サラウンドなどの設定は、次のような場合に取り消されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。

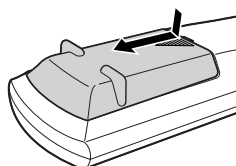
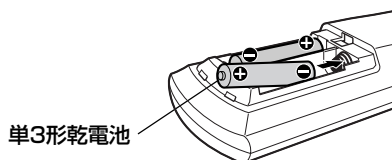
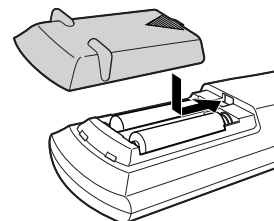
- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

ご注意

- 電源コードはテレビやビデオデッキなどから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりする場合があります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

リモコンを準備する

単3形の乾電池を2本入れます。**電池の極性(＋、－)を間違えないように入れてください。**

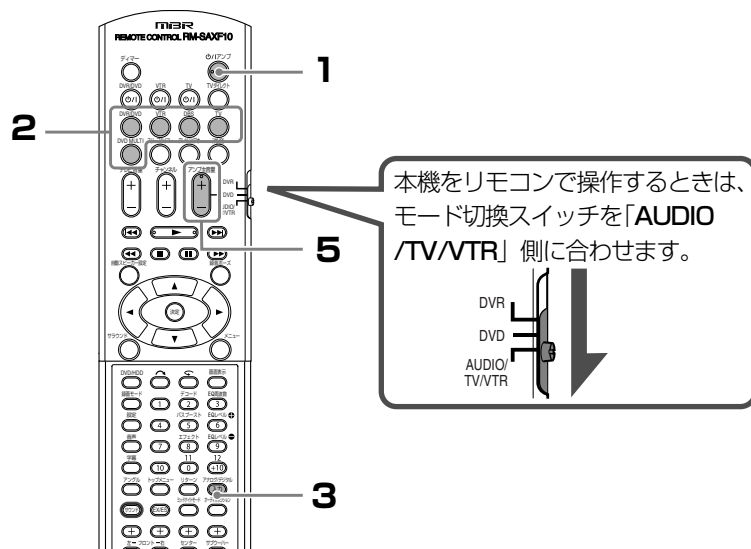
1. 裏ブタを外す
矢印の方向にスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる
リモコン内部の表示に極性(＋ －)を合わせ、正しく入れてください。

3. 裏ブタをしめる
矢印の方向に戻します。

リモコンの操作範囲について

- リモコンの先端を本体前面のリモコン受光部に向けて操作します。操作可能な距離は、リモコン受光部より約5mですが、斜めから操作すると短くなります。

- リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっていると、動作しないことがあります。
- 操作範囲が狭くなったり、本体に近づけないと操作できなくなったときは、新しい電池と交換してください。

お知らせ

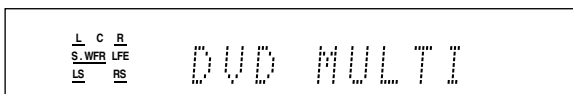
- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できない場合があります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗しています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

ふだんの使いかた

リモコンから

1 ⏻/I アンプボタンを押して本機の電源を「入」にする

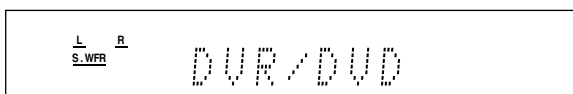
押すごとに電源が「入」⟷「切」します。
本体のスタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後に「DVD MULTI」を選んでいた場合

L C R S.WFR LFE LS RS　DVD MULTI

2 ソース（音源）機器選択ボタンを押して再生するソース（音源）を選ぶ

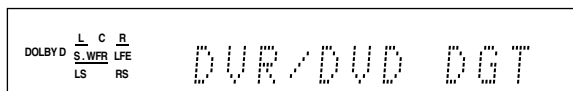
選んだソース（音源）名が表示され、ソースランプが緑に点灯します。

例：「DVR/DVD」を選んだ場合

L R S.WFR　DVR/DVD

3 アナログ/デジタル入力ボタンを押して音声入力（デジタル/アナログ）を切り換える

選んだ音声入力が表示窓に表示されます。

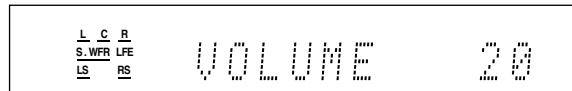
例：デジタル入力を選んだ場合

DOLBY D L C R S.WFR LFE LS RS　DVR/DVD DGT

- 音声入力でデジタルを選ぶと、表示窓のソース（音源）名の横に「DIGITAL（またはDGT）」と表示されます。
- DVR/DVD、VTR、DBS、TVをアナログとデジタル両方で接続していると、リモコンで音声入力（デジタル/アナログ）を切り換えることができます。詳しくは「アナログ/デジタルの入力を切り換える」（➡ ***21*** ページ）をご覧ください。

4 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

5 アンプ主音量（＋/－）ボタンを押して音量を調節する

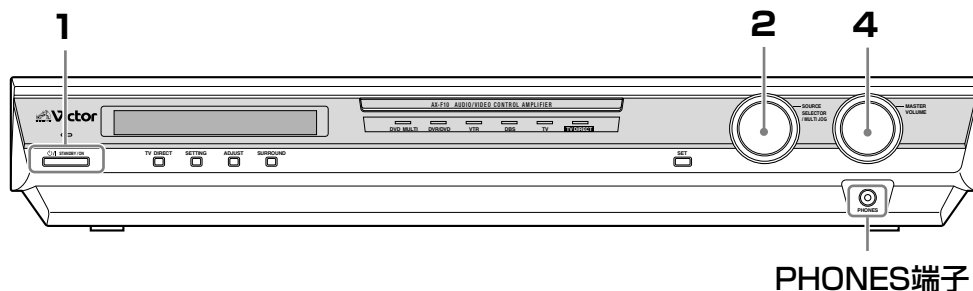
L C R S.WFR LFE LS RS　VOLUME 20

音量レベルは、0（最小）～50（最大）までの範囲で調節できます。

電源を「切」にする

⏻/I アンプボタンを押します。
本体のスタンバイランプが点灯します。

ご注意

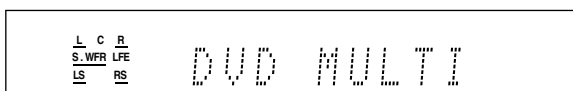
- 次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりする場合があります。
  - ・本機の電源を「入」⟷「切」するとき
  - ・ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするとき

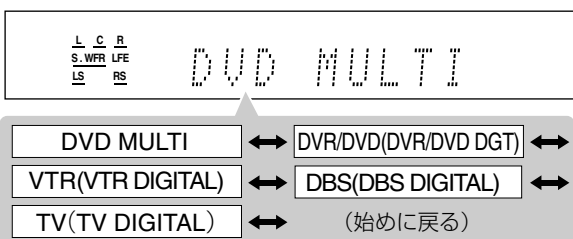
本体から操作するときも同様です。

本体から

1 ⏻/I STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる

押すごとに電源が「入」⟷「切」します。
スタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

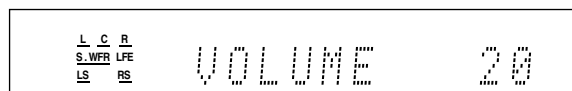
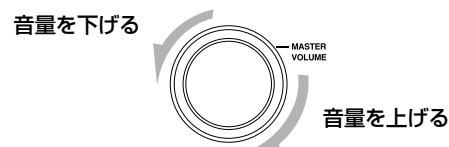
例：最後に「DVD MULTI」を選んでいた場合

L C R S.WFR LFE LS RS　DVD MULTI

2 SOURCE SELECTOR/MULTI JOGつまみを回して再生するソース（音源）を選ぶ

回すごとにソース（音源）名が切り換わります。
ソース（音源）に合わせて、ソースランプが緑に点灯します。

- 音声入力でデジタルを選んでいるときは、表示窓のソース（音源）名の横に「DIGITAL（またはDGT）」と表示されます。

3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 MASTER VOLUMEつまみを回して音量を調節する

L C R S.WFR LFE LS RS　VOLUME 20

音量レベルは、0（最小）〜50（最大）までの範囲で調節できます。

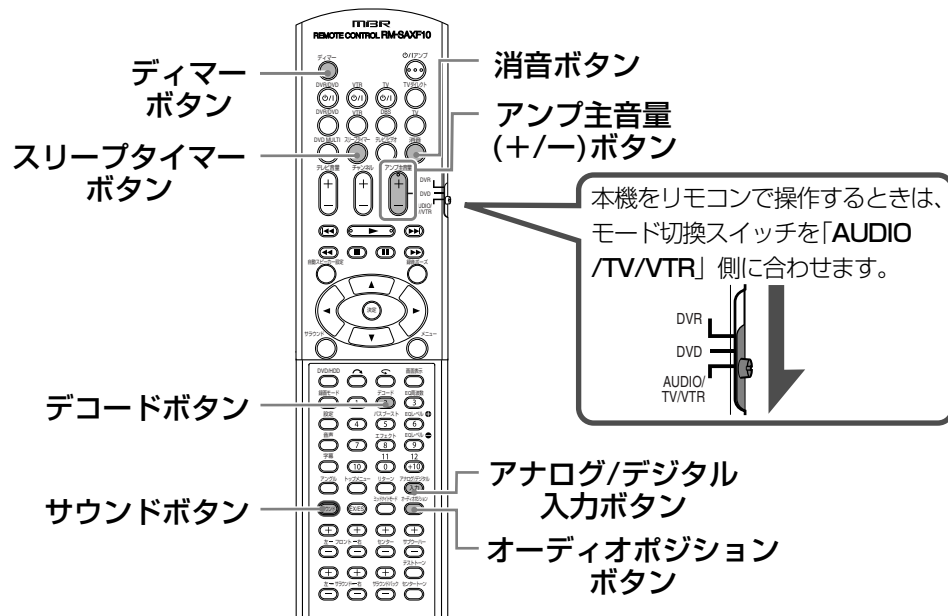
電源を「切」にする

⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
スタンバイランプが点灯します。

ヘッドホンで楽しむ

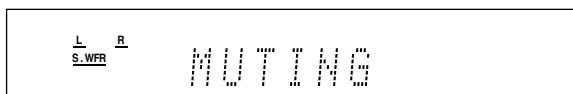
本体PHONES端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出なくなります。表示窓に「HEADPHONE」が表示されHP表示が点灯します。ヘッドホンを使うときは、スピーカーの設定に関係なく次の信号が出力されます。

- マルチチャンネルソースのときは、各チャンネルの音声信号がダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。ソース（音源）が「DVD MULTI」のときは、左右フロントチャンネルの信号が再生されます。
- ヘッドホンでもサラウンドを楽しむことができます。サラウンドを使用しているときにヘッドホンを使用すると、表示窓に「3DHEADPHONE」が表示され、3D表示、DSP表示が点灯します。

便利な機能

一時的に音を消す(消音)

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消したいときに便利です。

消音ボタンを押す

表示窓に「MUTING(ミューティング)」と表示されます。
スピーカーとヘッドホンから音が出なくなります。

もとの音量に戻すには

アンプ主音量(＋/ー)ボタンを押すか、またはもう一度**消音**ボタンを押します。本体の**MASTER VOLUME**つまみを回しても、もとの音量に戻ります。

表示窓の明るさを変える(ディマー)

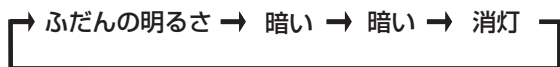
映画ソフトなどをご覧になるときなど、表示窓の明るさを変えたいときに使います。

ディマーボタンを押す

- ボタンを押すごとに、表示窓の明るさが4段階に変化します。

ふだんの明るさ → やや暗い → 暗い → 消灯

- ボタンを押すごとに、本体のイルミネーションランプの明るさが3段階に変化します。

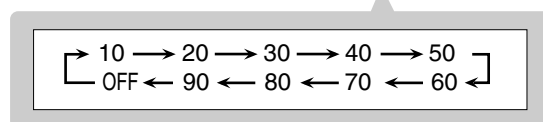
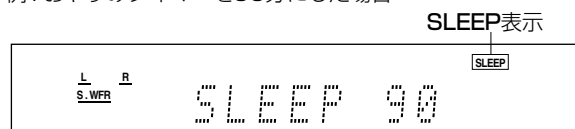
ふだんの明るさ → 暗い → 暗い → 消灯

おやすみタイマーを使う(スリープタイマー)

おやすみタイマーを使うと、設定した時間が経過すると本機の電源が自動的に「**切**」になります。

スリープタイマーボタンを押す

- ボタンを押すごとに、設定時間(分)が次のように切り換わります。

例：おやすみタイマーを90分にした場合

10 → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → OFF

- おやすみタイマーの動作中は、SLEEP表示が点灯します。

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変える

おやすみタイマーを設定後に**スリープタイマー**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープタイマー**ボタンをくり返し押して希望の時間を選びます。

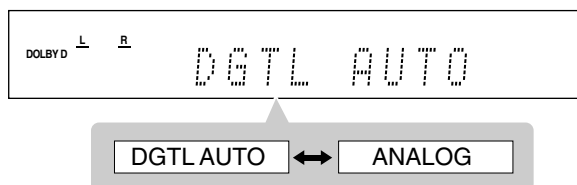
おやすみタイマーを解除する

スリープタイマーボタンをくり返し押して「OFF」を表示させます。おやすみタイマーが解除されSLEEP表示は消灯します。
電源を「**切**」にしたときやTVダイレクト(➡ *22* ページ)にした場合にも、おやすみタイマーは解除されます。

アナログ/デジタルの入力を切り換える

DVR/DVD、VTR、DBS、TVをアナログとデジタルの両方で接続しているときは、音声入力(デジタル/アナログ)を切り換えることができます。

アナログ/デジタル入力ボタンを押す

• ボタンを押すごとに、入力が次のように切り換わります。

DGTL(Digital) AUTO	：	デジタル音声を聞くときに選びます。デジタル信号を自動判別します。
ANALOG	：	アナログ音声を聞くときに選びます。[お買い上げ時の設定]

デジタル信号について

本機で表示されるデジタル信号は次の5つです。デジタル音声を入力すると、対応するデジタル音声フォーマット表示が点灯します。

LPCM	：	CDなどの通常のオーディオ2チャンネル信号(リニアPCM)のとき点灯します。
DOLBY D	：	ドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
DTS	：	DTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
DTS 96/24	：	DTS 96/24信号のとき点灯します。
AAC	：	MPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

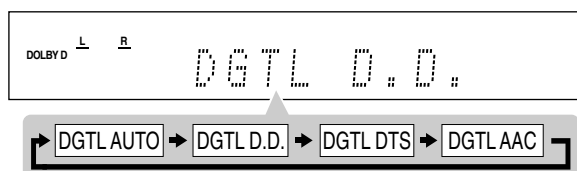
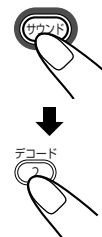
デジタル入力信号フォーマットを切り換える

アナログ/デジタル音声入力切り換えで「DGTL AUTO」を選んでいるときに、無音状態やノイズによってデジタル信号が正しく判別できないことがあります。このような場合に、手動でデジタル入力信号フォーマットを切り換えることができます。

サウンドボタンを押してからデコードボタンを押す

• **デコード**ボタンを押すごとに、デジタル入力信号フォーマットが次のように切り換わります。

DOLBY D　L　R　DGTL D.D.

DGTL AUTO ➡ DGTL D.D. ➡ DGTL DTS ➡ DGTL AAC

DGTL AUTO	：	デジタル信号を自動判別します。
DGTL D.D.	：	ドルビーデジタル対応信号を聞きたいときに選びます。ドルビーデジタル信号が入力されると**DOLBY D**表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。
DGTL DTS	：	DTSデジタルサラウンド対応信号を聞きたいときに選びます。DTS信号が入力されると**DTS**表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。 • DTS 96/24信号が入力されたときは**96/24**表示も点灯します。
DGTL AAC	：	MPEG-2 AAC対応信号を聞きたいときに選びます。MPEG-2 AAC対応信号が入力されると**AAC**表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。

• 本機の電源を「**切**」にしたり他の入力機器を選んだときは、デジタル信号フォーマットが「**DGTL AUTO**」に戻ります。

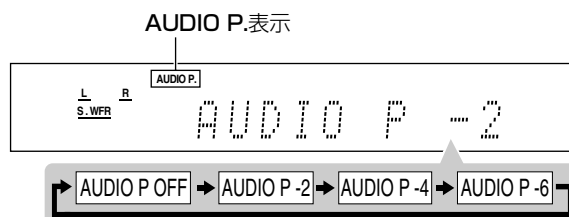
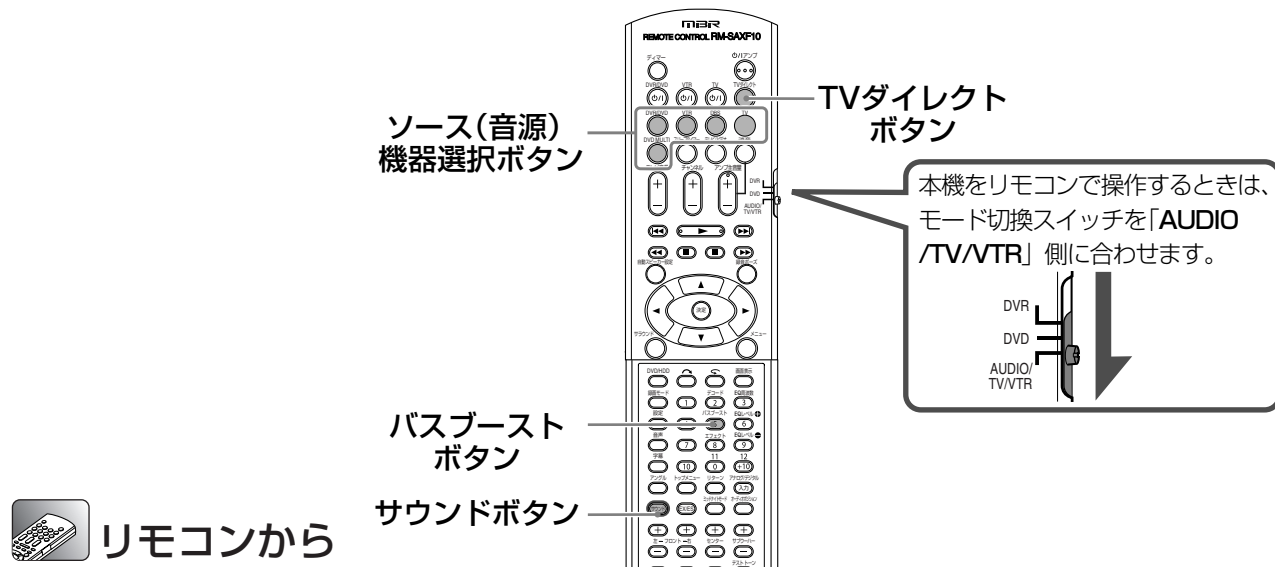
デジタル入力端子に割り当てられているソース(音源)名が接続機器名と合っていない場合は、デジタル入力に切り換えることができません。それぞれのデジタル入力端子に、接続したソース(音源)名を正しく設定してください。詳しくは「デジタル入力端子に接続したソース(音源)の設定」(➡ ***31*** ページ)をご覧ください。

サブウーハーの出力レベルを調節する(オーディオポジション)

ステレオ音声を再生しているときに、サブウーハーの音量が他のスピーカーよりも大きいときは、サブウーハーの出力レベルを調節してください。

• 出力レベルはソース(音源)ごとに設定できます。

オーディオポジションボタンを押す

• ボタンを押すごとに、サブウーハーの出力レベルが次のように切り換わります。

• −2(dB)単位で減衰し、最小で−6(dB)まで設定することができます。その間**AUDIO P.**表示が点灯します。「**OFF**」にすると**AUDIO P.**表示は消灯します。
• オーディオポジションは、サラウンドモードが働いているときやソース(音源)が「**DVD MULTI**」のとき、またはサブウーハーが接続されていないときは働きません。

リモコンから

低音の強調（バスブースト）

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

サウンドボタンを押してから バスブーストボタンを押す

- **バスブースト**ボタンを押すごとに、表示が次のように切り換わります。

ON	：低音を4dB増強します。BASS表示が点灯します。
OFF	：通常の設定値で再生します。[お買い上げ時の設定]

- 本体でも同じ設定をすることができます（➡ ***35*** ページ）。

TVダイレクトを使う

本機の電源を「入」にすることなく、本機をAVセレクターとして使うことができます。TVダイレクトの動作中は、接続したビデオ機器からの音声と映像が、本機に接続したテレビでお楽しみいただけます。また、ビデオ機器（DVR/DVD、VTR、DBS）のソース（音源）切り換えができます。

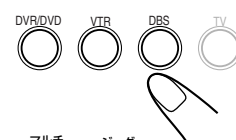
- ソース（音源）が「DVD MULTI」のときは「DVD MULTI」の前回選択していたソース（音源）が選ばれます。
- 入力機器を接続している端子と同じ種類の端子で接続してください（➡ ***12***～***16*** ページ）。

1 TVダイレクトボタンを押す

表示窓が消灯し、TV DIRECTランプと前回選択していたソースランプが**緑**に点灯します。

- 本体のTV DIRECTボタンを押しても設定できます。

2 再生したい機器（DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ）とテレビの電源を入れる

3 リモコンのソース（音源）機器選択ボタンを押して再生する機器を選ぶ

- 本体のSOURCE SELECTOR/MULTI JOG（ソース セレクター マルチ ジョグ）つまみを回しても選べます。

選んだソース（音源）のソースランプが**緑**に点灯します。

- TVダイレクトを解除して本機の電源を「切」にするときは、リモコンの⏻/Iアンプボタン、または本体の⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
- TVダイレクトを解除して本機の電源を「入」にするときは、もう一度**TVダイレクト**ボタンを押します。
- マルチチャンネルソースを選んでいたときは、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はアナログ2チャンネルにダウンミックスされます。
- TVダイレクトの動作中は、ソース（音源）を「DVD MULTI」や「TV」にしたり、本機で音声を調節することはできません。

その他の機能について

本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソース（音源）ごとの設定を記憶します。

・ 本機の電源を「切」にしたとき
・ 本機のソース（音源）を切り換えたとき

また、ソース（音源）ごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソース（音源）を選んだときにその設定が呼び出されます。ソース（音源）ごとに次の内容が記憶されます。

・ アナログ/デジタル入力の設定
・ フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーの出力レベル
・ サブウーハーの出力レベル（オーディオポジション）
・ サブウーハーの位相（PHASE）
・ バスブースト
・ インプットアッテネーター
・ サラウンドモード
・ イコライザー調節

スピーカーの設定をする

スピーカーの設定について

■スピーカーの設定項目について

接続したスピーカーの情報(有無、サイズ、設置数など)を本機に設定することで、ドルビーデジタルやDTSの6.1チャンネルサラウンド(➡ *40* ページ)などの再生に最適な音場を再現することができます。

スピーカーの設定には次の3項目があります。( )内は表示窓に表示される設定項目名です。

設定項目	説明
サブウーハーの設定 (SUBWOOFER)	サブウーハーを使用するかどうかを設定します。
スピーカーのサイズ設定 (FRONT SPK、CENTER SPK、SURRND SPK、S BACK SPK)	フロントスピーカー(FRONT SPK)、センタースピーカー(CENTER SPK)、サラウンドスピーカー(SURRND SPK)、サラウンドバックスピーカー(S BACK SPK)について、使用するかどうか、またはユニットのサイズを設定します。
スピーカーの距離設定 (FRNT L DIST、FRNT R DIST、CENTER DIST、SURR L DIST、SURR R DIST、S BACK DIST)	各スピーカーをリスニングポジションから等距離に配置できないときに使う設定です。理想的配置に近づけるために出力タイミングの遅れを調節します。

■自動スピーカー設定について

自動スピーカー設定機能を使うと、拍手ひとつで各スピーカーの**距離設定***1と**出力レベル調節***2を簡単に行うことができます。

- サブウーハーの設定やスピーカーのサイズ設定など項目ごとの設定を変更したり、より詳細な設定をしたい場合は、「詳細なスピーカー設定」(➡ *27* ページ)で行ってください。

*1距離設定とは…

各スピーカーからの音声がリスニングポジションに同時に到達するためには、各スピーカーを等距離に設置することが必要です。本機では、スピーカーを等距離に設置できないときでも、音声が同時に到達できるようにスピーカーからの音声出力のタイミングを遅らせることができます。

*2スピーカーの出力レベル調節とは…

サラウンドなど複数のスピーカーを使用するときは、各スピーカーからの音声をリスニングポジションで聞いたときに、同じ音量になることが理想的です。
本機では、各スピーカーごとに出力レベルを調節し、スピーカーからの音量を同じ大きさに揃えることができます。
詳しくは、「スピーカー出力レベルの調節」(➡ *34* ページ)をご覧ください。

スピーカーの設定をする(つづき)

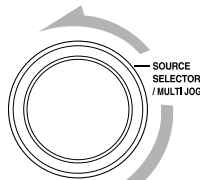
自動スピーカー設定

ふだん視聴する場所(リスニングポジション)で一回手を叩きます。本機では、接続されたスピーカーをマイクのように使ってその音を拾い、スピーカーの**距離設定**と**出力レベル調節**を行います。

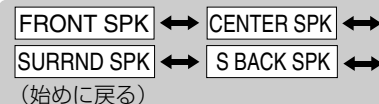
- **より正確な設定をするために、本体に接続しているすべての機器(DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、テレビ、サブウーハーなど)の電源コードを抜き、スピーカーの前に障害物がないことを確認してから設定を行ってください。**
- 設定は、全てのスピーカー(左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー)を接続した状態で行ってください。センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを接続しない場合や、設定内容を変更したいときは「詳細なスピーカー設定」(➡ ***27*** ページ)を行ってください。詳細なスピーカー設定を行った場合は、自動スピーカー設定による設定は無効になります。
- 設定の前に各スピーカーの接続(➡ ***11*** ページ)、ディマーを解除していること(➡ ***20*** ページ)をご確認ください。

1 本体のSETTING(セッティング)ボタンを押す

MULTI JOG(マルチ ジョグ)つまみが項目設定用に働くようになります。

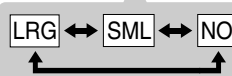
2 本体のMULTI JOG(マルチ ジョグ)つまみを回して設定するスピーカーを表示させ、SETボタンを押す

サイズを設定するスピーカーを選びます。

- お使いのスピーカーサイズを本機に登録します。

FRONT SPK

FRONT(フロント)：フロントスピーカーの設定をします。
CENTER(センター)：センタースピーカーの設定をします。
SURRND(サラウンド)：サラウンドスピーカーの設定をします。
S BACK(サラウンドバック)：サラウンドバックスピーカーの設定をします。

3 本体のMULTI JOG(マルチ ジョグ)つまみを回してスピーカーのサイズを決め、SETボタンを押す

設定が本体に記憶されます。

- お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径によってサイズを選びます。

LRG(ラージ)(大)：スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。
SML(スモール)(小)：スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。　[お買い上げ時の設定]
NO (なし)：スピーカーを接続していないときに選びます(「FRONT SPK」では選べません)。

4 本体のMULTI JOG(マルチ ジョグ)つまみを回してサブウーハーを使用するかを決め、SETボタンを押す

設定が本体に記憶されます。

SUBWFR :YES

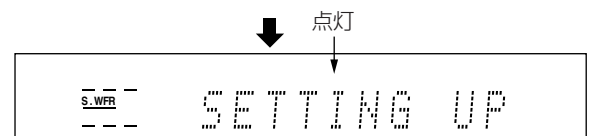
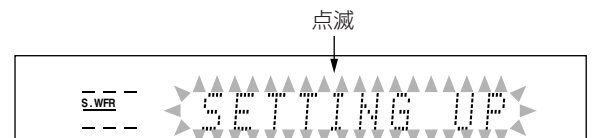
YES ↔ NO

YES：サブウーハーを使用するときに選びます。S.WFR表示が点灯します。
NO：サブウーハーを接続していない、または使用しないときに選びます。

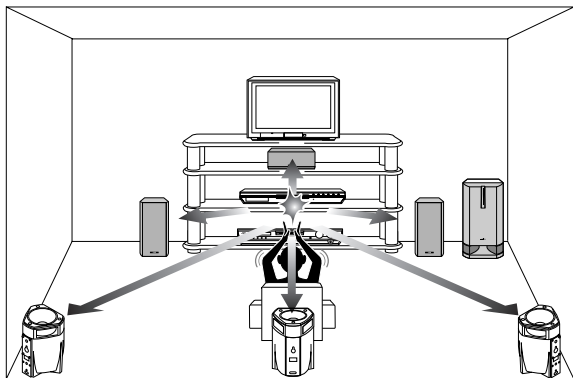
- 本機では、サブウーハーが接続されていると、本機の電源を「入」にしたときにサブウーハーを自動的に検出し、「YES」に設定します。

5 ふだん視聴する場所(リスニングポジション)に座る

6 表示窓に「SETTING UP(セッティング アップ)」が点滅し始めるまでリモコンの自動スピーカー設定ボタンを押し続ける

- しばらく点滅すると点灯に変わります。

- それまでの距離設定と出力レベル設定は無効になります。
- 点滅中にもう一度**自動スピーカー設定**ボタンを押したり設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、「**SILENT-ALL**」が表示され、設定前のソース(音源)表示に戻ります。

7 「SETTING UP」点灯中に、リスニングポジションから一回手を叩く

音が体で妨げられないように頭上で叩きます。

8 メッセージを確認する

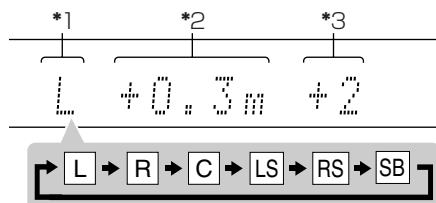
手を叩いた後に、次のいずれかのメッセージが表示されます。

SUCCESSFUL

SUCCESSFUL	SILENT
SILENT-ALL	FAILED

SUCCESSFUL：各スピーカーに拍手の音が届き、設定に成功しました。自動設定された値が表示されます。

<STD CH> LS

標準チャンネル(もっとも近くにあるスピーカー)
基準になるスピーカーを表示します。このスピーカーまでの距離は0mに設定されます。他のスピーカーはこの距離を基準に設定されます。

***1. スピーカー表示**

L	：左フロントスピーカー	R	：右フロントスピーカー
C	：センタースピーカー	LS	：左サラウンドスピーカー
RS	：右サラウンドスピーカー	SB	：サラウンドバックスピーカー

***2. 標準チャンネルとの距離の差**
各スピーカーに設定された距離が、標準チャンネルとの差として表示されます。

***3. 出力レベル**
各スピーカーの出力レベルが表示されます。

SILENT　：フロントスピーカーのみが検出されたとき、あるいはセンタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーのうち、いずれかが検出されたとき。

SILENT-ALL：すべてのスピーカーに拍手の音が15秒間届いていません。

FAILED　：フロントスピーカーの左右どちらかに拍手の音が届いていません。

- 「SILENT」、「SILENT-ALL」または「FAILED」が表示された場合は、再度表示窓に「SETTING UP」と表示されます。このときは手順**7**をもう一度行ってください。
- 3回続けて「SILENT-ALL」または「FAILED」だった場合は「MANUAL」と表示されます。このときは詳細なスピーカー設定(➡ ***27*** ページ)を行ってください。
- 2回続けて「SILENT」だった場合、または「SILENT-ALL」または「FAILED」のいずれかが2回表示されたあと3度目が「SILENT」だった場合、検出できなかったスピーカーの距離は「9m」に設定されます。

自動スピーカー設定をやめるには

「SETTING UP」が点滅中にリモコンの**自動スピーカー設定**ボタンを押します。
- 「SETTING UP」が点滅から点灯に変わったあとは、他の操作はできません。自動スピーカー設定の操作を完了してください。

自動スピーカー設定の内容を確認するには

リモコンの**自動スピーカー設定**ボタンを押します。設定されている内容が表示されます。
- 自動スピーカー設定の後に設定内容を変更しているときは、「MANUAL」と表示されます。
- 自動スピーカー設定が設定されていないときは、「NO. S.S.S.」と表示されます。

- リスニングルームの状況、スピーカーの種類、または拍手の強さによっては正しく設定できないことがあります。

ご注意

- サブウーハーを「NO」に設定したときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SML」に設定したときは、その他のスピーカーを「LRG」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「NO」に設定したときは、サラウンドバックスピーカーを「LRG」または「SML」に設定することはできません。またサラウンドスピーカーを「SML」に設定したときは、サラウンドバックスピーカーを「LRG」に設定することはできません。

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする

次の項目について設定します。

- 詳細なスピーカー設定
- サブウーハーの出力設定(「SUBWFR OUT」)
- 6.1チャンネルサラウンドの設定(「EX/ES」)
- デュアルモノの設定(「DUAL MONO」)
- クロスオーバー周波数の設定(「CROSS OVER」)
- 低音域のレベル設定(「LFE ATT」)
- ミッドナイトモードの設定(「MIDNIGHT M.」)
- デジタル入力端子に接続したソース(音源)の設定(「DIGITAL IN」)
- オートサラウンドの設定(「AUTO SURRND」)
- 映像接続の種類の設定(「DVD VIDEO」、「VTR VIDEO」、「DBS VIDEO」)

操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 SETTINGボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して設定する項目を表示させる

SOURCE SELECTOR / MULTI JOG

回すごとに設定項目が次のように切り換わります。

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください(➡ ***27〜32*** ページ)。

SUBWOOFER	↔	FRONT SPK	↔	CENTER SPK	↔
SURRND SPK	↔	S BACK SPK	↔	DIST UNIT	↔
FRNT L DIST	↔	FRNT R DIST	↔	CENTER DIST	↔
SURR L DIST	↔	SURR R DIST	↔	S BACK DIST	↔
SUBWFR OUT	↔	EX/ES	↔	DUAL MONO	↔
CROSS OVER	↔	LFE ATT	↔	MIDNIGHT M.	↔
DIGITAL IN1	↔	DIGITAL IN2	↔	DIGITAL IN3	↔
AUTO SURRND	↔	DVD VIDEO	↔	VTR VIDEO	↔
DBS VIDEO	↔	(始めに戻る)			

3 SETボタンを押す

設定項目が選ばれ、設定画面が表示されます。

例:「SUBWOOFER」を選んだ場合

L R S.WFR SUBWFR :YES

- 「DIGITAL IN(1〜3)」を選んだときは、現在の設定が表示されます。

4 MULTI JOGつまみを回して設定を選び、SETボタンを押す

SOURCE SELECTOR / MULTI JOG

SET

設定が本体に記憶されます。

例:「SUBWOOFER」で「NO」を選んだ場合

L R S.WFR SUBWFR : NO

5 他の項目を設定するときには、手順**2**〜**4**をくり返す

詳細なスピーカー設定

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURRND SPK ↔ S BACK SPK ↔ DIST UNIT ↔
FRNT L DIST ↔ FRNT R DIST ↔ CENTER DIST ↔
SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔ S BACK DIST ↔
SUBWFR OUT ↔ EX/ES ↔ DUAL MONO ↔
CROSS OVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT M. ↔
DIGITAL IN1 ↔ DIGITAL IN2 ↔ DIGITAL IN3 ↔
AUTO SURRND ↔ DVD VIDEO ↔ VTR VIDEO ↔
DBS VIDEO ↔ (始めに戻る)

接続した各スピーカーについて次の設定をします。

- サブウーハーの設定（「**SUBWOOFER**」）
- スピーカーサイズの設定（「**FRONT SPK**」「**CENTER SPK**」「**SURRND SPK**」「**S BACK SPK**」）
- スピーカーの距離設定（「**DIST UNIT**」「**FRNT L DIST**」「**FRNT R DIST**」「**CENTER DIST**」「**SURR L DIST**」「**SURR R DIST**」「**S BACK DIST**」）

サブウーハーの設定

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURRND SPK ↔ S BACK SPK ↔ DIST UNIT ↔
FRNT L DIST ↔ FRNT R DIST ↔ CENTER DIST ↔
SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔ S BACK DIST ↔

サブウーハーを使用する場合は「**YES**」を選択してください。

SUBWOOFER

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

SUBWFR :YES

YES ↔ NO

YES：サブウーハーを使用するときに選びます。S.WFR表示が点灯します。サブウーハーの出力レベルが調節できるようになります。

NO：サブウーハーを接続していないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

- 本機では、サブウーハーが接続されていると、本機の電源を「**入**」にしたときにサブウーハーを自動的に検出し、「**YES**」に設定します。

スピーカーサイズの設定

SUBWOOFER ↔ FRONT SPK ↔ CENTER SPK ↔
SURRND SPK ↔ S BACK SPK ↔ DIST UNIT ↔
FRNT L DIST ↔ FRNT R DIST ↔ CENTER DIST ↔
SURR L DIST ↔ SURR R DIST ↔ S BACK DIST ↔

お使いのスピーカー（フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー）について、使用するかどうか、またはユニットのサイズを本機に登録します。

- はじめに、設定するスピーカーを選びます。

例：フロントスピーカーを選んだ場合

FRONT SPK

FRONT SPK（フロント スピーカー）	：フロントスピーカーの設定をします。
CENTER SPK（センター）	：センタースピーカーの設定をします
SURRND SPK（サラウンド）	：サラウンドスピーカーの設定をします。
S BACK SPK（サラウンドバック）	：サラウンドバックスピーカーの設定をします。

- 次に、各スピーカーのサイズを選びます。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

お使いのスピーカーに内蔵されているユニットの口径でサイズを選びます。

LRG（大）（ラージ）	：スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。
SML（小）（スモール）	：スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。
NO（なし）	：スピーカーを接続していないときに選びます（「**FRONT SPK**」では選べません）。

ご注意

- サブウーハーを「**NO**」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「**LRG**」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「**SML**」に設定したときは、その他のスピーカーを「**LRG**」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「**NO**」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーを「**LRG**」または「**SML**」に設定することはできません。またサラウンドスピーカーを「**SML**」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーを「**LRG**」に設定することはできません。

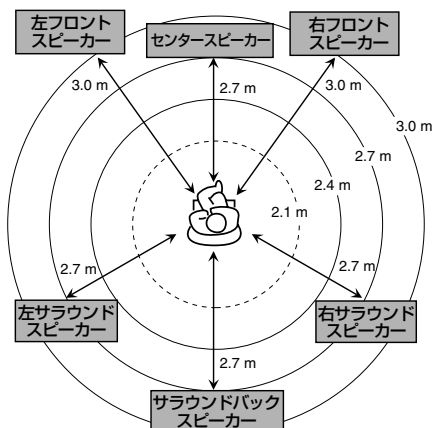
詳細なスピーカー設定(つづき)

スピーカーの距離設定

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離にばらつきがある場合に、各スピーカーとリスニングポジションの**距離**を設定することができます。

- 音の到達時間は、**約30cmの差で約0.001秒**変わります。
- 設定できる距離の単位は、**メートル**(meter)と**フィート**(feet)から選べます。
- 設定できる距離は、「**0.3m**(1フィート)」から「**9.0m**(30フィート)」までで、単位は**0.3m**(1フィート)きざみです。
- スピーカーサイズ設定で「**NO**」に設定されているスピーカーは、表示されません。
- あらかじめ自動スピーカー設定(➡ ***24*** ページ)を行っている場合は、ここで設定する距離に自動スピーカー設定の内容が置き換えられます。(自動スピーカー設定の内容は設定画面には表示されません)

例: 下図のようにスピーカーを配置したときは、左右のフロントスピーカーを「3.0m」に、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを「2.7m」に設定します。
表示窓は次のように表示されます。

左フロントスピーカー	:「FL D : 3.0m」
右フロントスピーカー	:「FR D : 3.0m」
センタースピーカー	:「C　D : 2.7m」
左サラウンドスピーカー	:「LS D : 2.7m」
右サラウンドスピーカー	:「LR D : 2.7m」
サラウンドバックスピーカー	:「SB D : 2.7m」

距離設定の単位を決める

SUBWOOFER ⟷ FRONT SPK ⟷ CENTER SPK ⟷
SURRND SPK ⟷ S BACK SPK ⟷ DIST UNIT ⟷
FRNT L DIST ⟷ FRNT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷
SURR L DIST ⟷ SURR R DIST ⟷ S BACK DIST ⟷

各スピーカーの距離設定の単位を設定します。

DIST UNIT

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

meter	: 表示する距離をメートル単位で表します。[お買い上げ時の設定]
feet	: 表示する距離をフィート単位で表します。

各スピーカーの距離差を設定する

SUBWOOFER ⟷ FRONT SPK ⟷ CENTER SPK ⟷
SURRND SPK ⟷ S BACK SPK ⟷ DIST UNIT ⟷
FRNT L DIST ⟷ FRNT R DIST ⟷ CENTER DIST ⟷
SURR L DIST ⟷ SURR R DIST ⟷ S BACK DIST ⟷

各スピーカーの距離を「**0.3m**」から「**9.0m**」の間で設定します。
[お買い上げ時の設定:3.0m]

例:フロントスピーカーを選んだ場合。

FRNT L DIST

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

FRNT L DIST	: 左フロントスピーカーの距離を設定します。
FRNT R DIST	: 右フロントスピーカーの距離を設定します。
CENTER DIST	: センタースピーカーの距離を設定します。
SURR L DIST	: 左サラウンドスピーカーの距離を設定します。
SURR R DIST	: 右サラウンドスピーカーの距離を設定します。
S BACK DIST	: サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。

サブウーハーの出力設定

SUBWFR OUT ↔	EX/ES ↔	DUAL MONO ↔	
CROSS OVER ↔	LFE ATT ↔	MIDNIGHT M. ↔	
DIGITAL IN1 ↔	DIGITAL IN2 ↔	DIGITAL IN3 ↔	
AUTO SURRND ↔	DVD VIDEO ↔	VTR VIDEO ↔	

サブウーハーから、LFE（Low（ロー） Frequency（フリケンシー） Effect（エフェクト）：低域効果音）信号に加えてフロントスピーカーの低音域の信号を出力するかどうかを設定します。

LFE	：LFE信号と、スピーカー設定で「**SML**」に設定されたスピーカーの低音域の信号を出力します。［お買い上げ時の設定］
LFE＋MAIN	：フロントスピーカーにフロントスピーカーの低音域の信号を常に加えて出力します。

サブウーハーの設定を「**NO**」にしているときは、この設定を行うことはできません（➡ ***27*** ページ）。

6.1チャンネルサラウンドの設定

SUBWFR OUT ↔	**EX/ES** ↔	DUAL MONO ↔	
CROSS OVER ↔	LFE ATT ↔	MIDNIGHT M. ↔	
DIGITAL IN1 ↔	DIGITAL IN2 ↔	DIGITAL IN3 ↔	
AUTO SURRND ↔	DVD VIDEO ↔	VTR VIDEO ↔	

デジタル4チャンネル以上の音声信号に対して、6.1チャンネルサラウンドモードの動作を設定します。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

AUTO	：ドルビーデジタルEX信号またはDTS-ES信号が入力されたときのみ、6.1チャンネルサラウンドで再生します。5.1チャンネル以下の音声信号が入力されたときは5.1チャンネルで再生します。［お買い上げ時の設定］
ON	：ドルビーデジタル信号またはDTS信号のデジタル4チャンネル以上の音声が入力されると6.1チャンネルで再生します。
OFF	：6.1チャンネルサラウンドを使用しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1チャンネルまでのサラウンドで再生します。

- サラウンドを使用しているときにこの設定を切り換えると、サラウンドモードが切り換わることがあります。
- 設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ドルビーデジタルEX信号を持っているソフトによっては6.1チャンネルサラウンド再生ができないことがあります。
- リモコンの**EX/ES**ボタンを押しても切り換えられます（➡***42*** ページ）。
  スピーカーサイズ設定でサラウンドスピーカーが「**NO**」のときは、リモコンのサラウンドボタンを押しても「**NO SURR SP**」と表示され、この設定をすることはできません。

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定している場合でも、サラウンドスピーカーを使ってドルビーデジタルEX信号やDTS-ES信号などのサラウンドバックチャンネル信号を再生できます（バーチャルサラウンドバック）。表示窓に**VIRTUAL SB**表示が点灯します。

調節・設定する

デュアルモノの設定

SUBWFR OUT ↔ EX/ES ↔ DUAL MONO ↔
CROSS OVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT M. ↔
DIGITAL IN1 ↔ DIGITAL IN2 ↔ DIGITAL IN3 ↔
AUTO SURRND ↔ DVD VIDEO ↔ VTR VIDEO ↔

デュアルモノ(DUAL MONO)信号は、左右に異なる音声を持ったデジタル2チャンネル信号です。各チャンネルの再生方法を設定します。

DUAL MONO

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

D MONO:SUB

D MONO:SUB ↔ D MONO:MAIN ↔
D MONO:ALL ↔ (始めに戻る)

SUB ：サブチャンネル(ch2)を選びます。スピーカー表示の「R」が点灯します。

MAIN ：メインチャンネル(ch1)を選びます。スピーカー表示の「L」が点灯します。 [お買い上げ時の設定]

ALL ：両方のチャンネルを選びます。スピーカー表示の「L」と「R」が点灯します。

デュアルモノ音声は通常、左右フロントスピーカー、センタースピーカーから聞こえます。サラウンド設定によって、聞こえるスピーカーが違います。

デュアルモノ設定	サラウンド解除中		サラウンド再生中				
			センタースピーカー設定				
			LRG/SML			NO	
	L	R	L	C	R	L	R
MAIN	ch1	ch1	—	ch1	—	ch1	ch1
SUB	ch2	ch2	—	ch2	—	ch2	ch2
ALL	ch1	ch2	—	ch1+ch2	—	ch1+ch2	ch1+ch2

クロスオーバー周波数の設定

CROSS OVER ↔ LFE ATT ↔ MIDNIGHT M. ↔
DIGITAL IN1 ↔ DIGITAL IN2 ↔ DIGITAL IN3 ↔
AUTO SURRND ↔ DVD VIDEO ↔ VTR VIDEO ↔
DBS VIDEO ↔

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できない場合があります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音域の信号を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

- 「スピーカーサイズの設定」(➡ ***27*** ページ)で、すべてのスピーカーを「LRG」に設定しているときは、この機能は働きません。
- ヘッドホンを使用しているときは、この機能は働きません。

CROSS OVER

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音域の信号は損なわれにくくなります。下記の表を参考に設定してください。

80Hz ：スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。

100Hz ：スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。

120Hz ：スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。

150Hz ：スピーカーの口径が6cm程度のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]

200Hz ：スピーカーの口径が5cm以下のとき選びます。

低音域のレベル設定

CROSS OVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT M. ⟷
DIGITAL IN1 ⟷ DIGITAL IN2 ⟷ DIGITAL IN3 ⟷
AUTO SURRND ⟷ DVD VIDEO ⟷ VTR VIDEO ⟷
DBS VIDEO ⟷

ドルビーデジタル、DTS音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

- この機能は「サブウーハーの設定」(➡*27* ページ)で「YES」を選んでいて、LFE(Low Frequency Effect:低域効果音)信号が入力されたときに働きます。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

LFE : 0dB

LFE : 0dB ⟷ LFE : –10dB

0dB	:	通常はこれを選びます。 [お買い上げ時の設定]
−10dB	:	低音域がひずむときに選びます。

ミッドナイトモードの設定

CROSS OVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT M. ⟷
DIGITAL IN1 ⟷ DIGITAL IN2 ⟷ DIGITAL IN3 ⟷
AUTO SURRND ⟷ DVD VIDEO ⟷ VTR VIDEO ⟷
DBS VIDEO ⟷

ダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよくサラウンドを楽しめます。

- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

MIDNIGHT M.

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

OFF	:	ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
1	:	ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	:	ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます(夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます)。

リモコンの**ミッドナイトモード**ボタンを押しても設定できます(➡*42* ページ)。

デジタル入力端子に接続したソース(音源)の設定

CROSS OVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT M. ⟷
DIGITAL IN1 ⟷ DIGITAL IN2 ⟷ DIGITAL IN3 ⟷
AUTO SURRND ⟷ DVD VIDEO ⟷ VTR VIDEO ⟷
DBS VIDEO ⟷

デジタル入力端子に接続した機器名を設定します。

DIGITAL IN1	:	デジタル入力1端子を設定します。
DIGITAL IN2	:	デジタル入力2端子を設定します。
DIGITAL IN3	:	デジタル入力3端子を設定します。

DIGITAL IN1から、順に機器名を設定します。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

DVR/DVD	:	DVDレコーダー/プレーヤー
DBS	:	BS/CSチューナー
VTR	:	ビデオデッキ
TV	:	テレビ

ひとつの機器名を複数の端子へ設定することはできません。DIGITAL IN3まで設定すると、デジタル入力端子4には、設定されなかった機器名が設定されます。

例: DIGITAL IN1 DVR/DVD
DIGITAL IN2 DBS
DIGITAL IN3 VTR
上記のように設定されることによって、下記の設定になります。
DIGITAL IN4 TV

オートサラウンドの設定

CROSS OVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT M. ⟷
DIGITAL IN1 ⟷ DIGITAL IN2 ⟷ DIGITAL IN3 ⟷
AUTO SURRND ⟷ DVD VIDEO ⟷ VTR VIDEO ⟷
DBS VIDEO ⟷

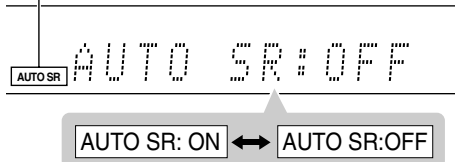
本機はマルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的に適切なサラウンドを選びます。
オートサラウンドを「OFF」に設定しているときは、マルチチャンネルのデジタル音声信号が入力された場合でも手動でサラウンドを「ON」にする必要があります。

AUTO SURRND

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

AUTO SR表示

AUTO SR:OFF

AUTO SR: ON ⟷ AUTO SR:OFF

ON	：オートサラウンドを使うときに選びます。AUTO SR表示が点灯します。
OFF	：オートサラウンドを使わないときに選びます。[お買い上げ時の設定]

次の場合には、オートサラウンドは働きません。
- アナログ音声入力が選ばれているとき
- リニアPCM信号を再生するとき
- 手動でデジタル入力信号フォーマット(DGTL D.D.、DGTL DTS、DGTL AAC)を選んでいるとき(➡ ***21*** ページ)
- DAPモード、DUAL MONO、ALL CH ST.を選んでいるとき(➡ ***40*** ページ)
- ヘッドホンを使用しているとき

オートサラウンドの詳しい動作について

オートサラウンド機能で、デジタル音声入力信号と選ばれるサラウンドの関係は次のようになります。

3チャンネル以上の音声信号のとき
・デジタル音声信号に対応するサラウンドが選ばれます。

ドルビーサラウンドのような、マトリクス処理された2チャンネルの音声信号(Lt/Rt)のとき
・再生中のデジタル音声信号に関わらず、サラウンドモードの「PLII MOVIE」が選ばれます。DTS信号の場合は「DTS NEO:6」「NEO:6CINEMA」が選ばれます。

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AACの2チャンネルの音声信号(Lo/Ro)のとき
・オートサラウンドオフ(ステレオ)となり、「SURRND OFF」と表示されます。

上記以外の2チャンネルの音声信号のとき
・オートサラウンドは働きません。

ご注意
- オートサラウンドが「ON」になっているときは、他のサラウンドが選ばれていても、マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別して適切なサラウンドを選びます。
- オートサラウンドが「ON」になっているときにSURROUND(サラウンド)ボタン(またはリモコンの**サラウンド**ボタン)を押すと、一時的にオートサラウンドは解除(「OFF」)されます。
  以下の操作で「ON」に戻ります。
  · 電源を「入」⟷「切」する
  · 他のソース(音源)を選ぶ
  · オートサラウンドをもう一度「ON」にする
  · アナログ/デジタルの入力を切り換える

映像接続の種類の設定

CROSS OVER ⟷ LFE ATT ⟷ MIDNIGHT M. ⟷
DIGITAL IN1 ⟷ DIGITAL IN2 ⟷ DIGITAL IN3 ⟷
AUTO SURRND ⟷ DVD VIDEO ⟷ VTR VIDEO ⟷
DBS VIDEO ⟷

DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナーを入力端子に接続したときのそれぞれの入力端子の種類を設定します。

例：「DVD VIDEO」の項目から「COMPNT」を選んだ場合

DVD VIDEO

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

DVD :COMPNT

DVD : S/C ⟷ DVD : COMPNT

- **DVDレコーダー/プレーヤーを接続するとき**

DVD : S/C	：DVDレコーダー/プレーヤーをS映像端子か 映像端子(コンポジット端子)に接続しているときに選びます。[お買い上げ時の設定]
DVD : COMPNT	：DVDレコーダー/プレーヤーをD4映像端子に接続しているときに選びます。

- **BS/CSチューナーを接続するとき**

DBS : S/C	：BS/CSチューナーをS映像端子か映像端子(コンポジット端子)に接続しているときに選びます。[お買い上げ時の設定]
DBS : COMPNT	：BS/CSチューナーをD4映像端子に接続しているときに選びます。

- **ビデオデッキを接続するとき**

VTR : S/C	：ビデオデッキをS映像端子か映像端子(コンポジット端子)に接続しているときに選びます。[お買い上げ時の設定]
VTR : COMPNT	：ビデオデッキをD4映像端子に接続しているときに選びます。

音量/音質の調節をする

次の項目について設定します。
これらの設定は、ソース(音源)ごとに記憶されます。ただし*印の項目は、サラウンドモードごとに記憶されます。

- **スピーカー出力レベルの調節(「SUBWFR LVL」「FRONT L LVL」「FRONT R LVL」「CENTER LVL」「SURR L LVL」「SURR R LVL」「S BACK LVL」)**
- **エフェクトの調節(「EFFECT」)***
- **パノラマ機能(「PANORAMA」)***
- **低音の強調(「BASS BOOST」)**
- **インプットアッテネーター(「INPUT ATT」)**
- **センタートーンの調節(「CENTER TONE」)**
- **イコライザーの調節(「D EQ」)**
- **センターチャンネルの定位の調節(「CENTER GAIN」)**
- **サブウーハーの位相の調節(「SBWFR PHASE」)**

操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

本体から

1 ADJUSTボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して調節する項目を表示させる

回すごとに設定項目が次のように切り換わります。
- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください(➡ ***34***〜***36*** ページ)。

L R S.WFR SUBWFR LVL

SUBWFR LVL ⟷ FRONT L LVL ⟷ FRONT R LVL ⟷
CENTER LVL ⟷ SURR L LVL ⟷ SURR R LVL ⟷
S BACK LVL ⟷ EFFECT ⟷ PANORAMA ⟷
BASS BOOST ⟷ INPUT ATT ⟷ CENTER TONE ⟷
D EQ 63Hz ⟷ D EQ 250Hz ⟷ D EQ 1kHz ⟷
D EQ 4kHz ⟷ D EQ 16kHz ⟷ CENTER GAIN ⟷
SBWFR PHASE ⟷ (始めに戻る)

- スピーカーサイズの設定やサブウーハーの設定を「**NO**」にしているときは、「**SUBWFR LVL**」、「**CENTER LVL**」、「**SURR L LVL**」、「**SURR R LVL**」は設定できません。
- 「**EFFECT**」はDAPモード、MONO FILM(➡ ***40*** ページ)の動作中に選べます。
- 「**PANORAMA**」はPLII MUSIC(➡ ***40*** ページ)の動作中に選べます。
- 「**CENTER GAIN**」はNEO:6MUSIC(➡ ***40*** ページ)の動作中に選べます。

3 SETボタンを押す

設定項目が選ばれ、設定画面が表示されます。

例:サブウーハーのレベル設定を選んだ場合

L R S.WFR SUBWFR LVL

4 MULTI JOGつまみを回して設定を選び、SETボタンを押す

設定が本体に記憶されます。

例:サブウーハーのレベル設定で「＋1」を選んだ場合

L R S.WFR SUBWFR +1

5 他の項目を設定する場合には、手順2〜4をくり返す

音量/音質の調節をする(つづき)

スピーカー出力レベルの調節

SUBWFR LVL ⟷	FRONT L LVL ⟷	FRONT R LVL ⟷	
CENTER LVL ⟷	SURR L LVL ⟷	SURR R LVL ⟷	
S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷	

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

FRNT L LVL

FRONT L LVL	：左フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
FRONT R LVL	：右フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
CENTER LVL	：センタースピーカーの出力レベルを調節します。
SURR L LVL	：左サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
SURR R LVL	：右サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK LVL	：サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。
SUBWFR LVL	：サブウーハーの出力レベルを調節します。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定：0(dB)]

- 「−10」から「+10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- リスニングポジションで各スピーカーの音を聞きながら、どのスピーカーからも同じ程度の音量で聞こえるように調節します。テストトーンを聞きながら、リモコンで調節することもできます(➡ ***41*** ページ)。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。
- スピーカーサイズの設定で「NO」にしているスピーカーは、表示されません。
- ヘッドホンを使用しているときは、左右フロントスピーカーのみを調節できます。
- あらかじめ自動スピーカー設定(➡ ***24*** ページ)を行っている場合は、ここで設定する出力レベルに自動スピーカー設定の内容が置き換えられます(自動スピーカー設定の内容は設定画面には表示されません)。

エフェクトの調節

SUBWFR LVL ⟷	FRONT L LVL ⟷	FRONT R LVL ⟷	
CENTER LVL ⟷	SURR L LVL ⟷	SURR R LVL ⟷	
S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷	

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***38*** ページ)が動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定：3]

- 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。
- リモコンの**サウンド**ボタンを押してから**エフェクト**ボタンを押しても調節できます(➡ ***41*** ページ)。

パノラマ機能

SUBWFR LVL ⟷	FRONT L LVL ⟷	FRONT R LVL ⟷	
CENTER LVL ⟷	SURR L LVL ⟷	SURR R LVL ⟷	
S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷	

PLII Music(➡ ***40*** ページ)が動作中に、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

PANORAMA

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

PANORAMA OFF(パノラマ オフ)	：通常の音声で再生します。[お買い上げ時の設定]
PANORAMA ON(パノラマ オン)	：音声が回り込んでくるような効果を強調します。

低音の強調(バスブースト)

CENTER LVL ⟷	SURR L LVL ⟷	SURR R LVL ⟷
S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷
BASS BOOST ⟷	INPUT ATT ⟷	CENTER TONE ⟷

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

BASS
BASS BOOST

SET
SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

BASS表示

BASS
B.BOOST ON

B.BOOST OFF ⟷ B.BOOST ON

B.BOOST OFF(バスブースト オフ) : 通常の設定値で再生します。
[お買い上げ時の設定]

B.BOOST ON(バスブースト オン) : 低音を4dB増強します。BASS表示が点灯します。

- リモコンの**サウンド**ボタンを押してから**バスブースト**ボタンを押しても設定できます(➡ ***22*** ページ)。

インプットアッテネーター

CENTER LVL ⟷	SURR L LVL ⟷	SURR R LVL ⟷
S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷
BASS BOOST ⟷	INPUT ATT ⟷	CENTER TONE ⟷

アナログ入力時にソース(音源)の信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。

INPUT ATT

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

ATT表示

ATT
ATT NORMAL

ATT NORMAL ⟷ ATT ON

ATT NORMAL(ノーマル) : 通常はこの状態で使用します。アナログ入力信号を調節しません。 [お買い上げ時の設定]

ATT ON(オン) : 入力信号を調節して音のひずみを軽減します。ATT表示が点灯します。

センタートーンの調節

S BACK LVL ⟷	EFFECT ⟷	PANORAMA ⟷
BASS BOOST ⟷	INPUT ATT ⟷	CENTER TONE ⟷
D EQ 63Hz ⟷	D EQ 250Hz ⟷	D EQ 1kHz ⟷

サラウンドモードが動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

CENTER TONE

SET
SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

C. TONE表示(センタートーンが「3」のときは表示されません)

C.TONE
CNT TONE 4

CNT TONE 1 ⟷ CNT TONE 5

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。
- センタースピーカーのサイズ設定が「NO」に設定されているときは調節できません(➡ ***27*** ページ)。
- リモコンの**センタートーン**ボタンを押しても調節できます(➡ ***41*** ページ)。

イコライザーの調節

BASS BOOST ⟷	INPUT ATT ⟷	CENTER TONE ⟷
D EQ 63Hz ⟷	D EQ 250Hz ⟷	D EQ 1kHz ⟷
D EQ 4kHz ⟷	D EQ 16kHz ⟷	CENTER GAIN ⟷

中心となる周波数帯域のレベルを調節して、よりよい音質でお楽しみいただけます。

- 調節できる周波数:63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

[お買い上げ時の設定: 0]

- 音質を調節すると、「0」以外の値のときに表示窓にEQ表示が点灯します。
- 「−8」から「+8」の範囲で2dB単位で調節できます。
- リモコンの**サウンド**ボタンを押してから、**EQ周波数**ボタンを押しても調節できます(➡ ***42*** ページ)。

音量/音質の調節をする(つづき)

センターチャンネルの定位の調節

D EQ 63Hz ⟷ D EQ 250Hz ⟷ D EQ 1kHz ⟷
D EQ 4kHz ⟷ D EQ 16kHz ⟷ **CENTER GAIN** ⟷
SBWFR PHASE

DTS Neo:6 Music(➡ ***40*** ページ)が動作中に、センタースピーカーの定位を調節することができます。

SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 0.2]

- 「0」から「0.5」の範囲で0.1単位で調節できます。
- 数値が大きくなると、センタースピーカーの音がより中央にまとまって聞こえます。
- センタースピーカーのサイズ設定が「NO」に設定されているときは調節できません(➡ ***27*** ページ)。

サブウーハーの位相の調節

D EQ 63Hz ⟷ D EQ 250Hz ⟷ D EQ 1kHz ⟷
D EQ 4kHz ⟷ D EQ 16kHz ⟷ CENTER GAIN ⟷
SBWFR PHASE

サブウーハーの効果が思うように得られないときに、位相を反転させることで効果が得られることがあります。

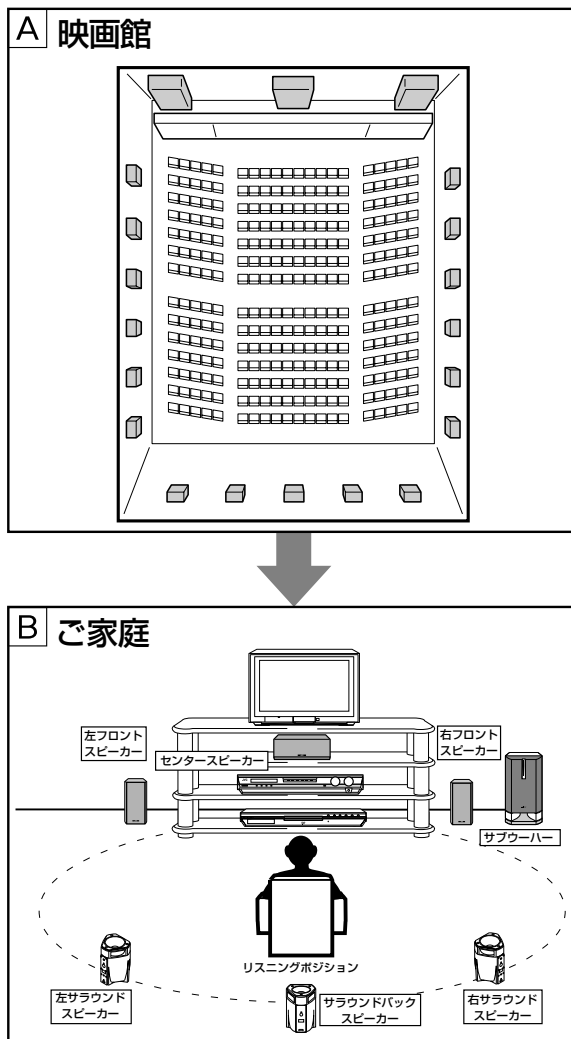
SETボタンを押すと、設定画面が表示されます。

PHASE NORM(Normal)	:通常はこの状態で使用します。[お買い上げ時の設定]
PHASE REV.(Reverese)	:位相が反転します。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。

本機は、6つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

音声信号の種類

本機搭載のDSP(デジタル･シグナル･プロセッサー)により、次の各種音声信号でお楽しみいただけます。

本機では、次の入力信号に対してサラウンドを使うことができます。

● アナログ音声信号

本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。

- 2ch : 本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。
- 5.1ch : 本体背面DVR/DVD入力(再生)、DVD MULTI入力端子からの入力信号です。ソース(音源)として「DVD MULTI」を選びます。この信号にはサラウンドモードは働きません。

● デジタル音声信号

本機とデジタル接続したソース(音源)機器からの信号です。

- リニアPCM : DVD、CD などで使われている2ch 音声信号です。表示窓の**LPCM**表示が点灯します。
- Dolby Digital ソフト : 表示窓の**DOLBY D**表示が点灯します。
  - Dolby Digital 信号
    最も普及したマルチチャンネル信号のひとつで、1ch から5.1ch まで対応します。
  - Dolby Digital EX 信号
    5.1ch にサラウンドバックチャンネルを加えた6.1ch対応の信号です。
- DTS ソフト : 表示窓の**DTS**表示が点灯します。
  - DTS 信号
    DVD、CD、LD など多様なメディアで使用されているマルチチャンネル信号です。1ch から5.1ch まで対応します。Dolbyよりも圧縮率が高く、高音質が特長です。
  - DTS 96/24 信号
    サンプリングレート96kHz/量子化ビット数24bit の高音質5.1ch の音声信号です。表示窓の**96/24**表示も点灯します。
  - DTS-ES Matrix/Discrete 信号
    5.1ch にサラウンドバックチャンネルを加えた6.1ch対応の信号です。マトリクス処理をしたMatrix 信号と、マトリクス処理なしのDiscrete信号があります。
- MPEG(エムペグ)-2 AAC : 衛星デジタル放送で使われている5.1ch までの音声信号です。表示窓の**AAC** 表示が点灯します。
- Dual(デュアル) Mono(モノ) : 左右に異なる音声を持った2ch信号です。

サラウンドモード

● ドルビーデジタル*1ソフトのサラウンドモード

- Dolby Digital EX : Dolby Digital EX信号または4ch以上のDolby Digital信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
- Dolby Digital : 2ch以外のDolby Digital信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
- Dolby Pro Logic II Movie/Dolby Pro Logic II Music : 映画ソフトや音楽ソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。表示窓に DD PL II 表示が点灯します。

● DTS*2ソフトのサラウンドモード

- DTS-ES Discrete : DTS-ES Discrete信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
- DTS-ES Matrix : DTS-ES Matrix信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 DTS、DTS-ES、Neo:6、DTS 96/24およびDTS Digital Surroundは、デジタル･シアター･システムズ社の商標です。

次ページに続く

サラウンドを使う（つづき）

• DTS Surround　：2ch以外のDTSソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。

• DTS Neo:6 Cinema/Music
：2chおよびデジタル4ch以上の信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。映画ソフトや音楽ソフトに適しています。表示窓に**NEO:6**表示が点灯します。

● MPEG-2 AAC*のサラウンドモード

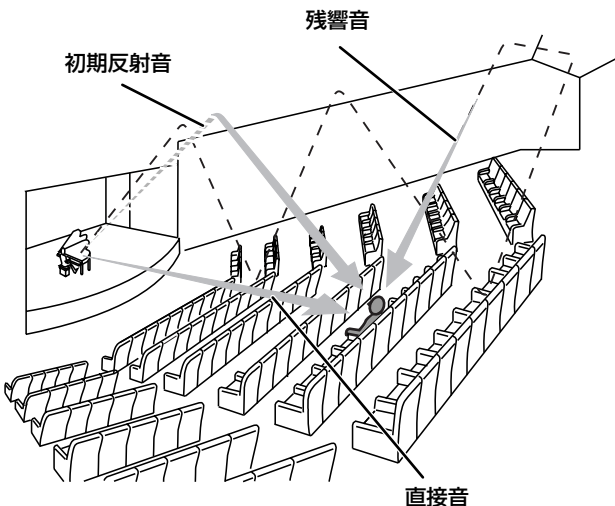
• AAC　：AAC信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です（地上デジタルやBSデジタル放送など）。

● DAP(デジタルアコースティックプロセッサー)モード

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音（**直接音**）と天井や壁などに反射してから耳に届く音（**初期反射音**）、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音（**残響音**）によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。表示窓に**DSP**表示が点灯します。

• DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
• DAPモードが動作中は、音響効果の度合い（エフェクトレベル）が調節できます（➡ ***41*** ページ）。

音場の構成

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

• HALL（ホール）1/2　：クラシック音楽用コンサートホールの音響効果を再現します。ホールの形状による音質の違いで「**1**」と「**2**」があります。
• LIVE CLUB（ライブ クラブ）　：小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。
• DANCE CLUB（ダンス クラブ）　：天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。
• PAVILION（パビリオン）　：パビリオンなど広い空間の音響効果を再現します。
• THEATER（シアター）1/2　：映画館の音響効果を再現します。大きさによる音質の違いで「**1**」と「**2**」があります。2ch音声で選んだときは、Dolby Pro Logic IIが動作し、DD PL II表示が点灯します。

● Mono Film

アナログ、Dual Mono、2chデジタル信号向けのサラウンドモードです。左右の音声を選択して聞くことができます。

● オールチャンネルステレオ（ALL CH ST.）

接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーまたはサラウンドバックスピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。表示窓の**DSP**表示が点灯します。

• オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声信号を再生するときに使うと効果的です。
• オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。

3D PHONICについて

本機では、スピーカー設置数が少ないとき(フロントスピーカーは必要です)でも、設置数に合わせたサラウンドをお楽しみいただけます。本機内蔵の3D PHONIC（フォニック）回路が、フロントスピーカーだけの構成でもサラウンドに近い効果をつくりだします。

• オールチャンネルステレオのときは、3D PHONIC回路は働きません。

3D PHONIC回路は次の場合に働きます。

• サラウンドスピーカーを使わない設定を選んだ場合
• フロントスピーカーのみを使う設定のときに、ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC信号向けのサラウンドモードを選んだ場合

3D PHONIC回路が動作中は、表示窓の**3D**表示が点灯します。

お知らせ

• サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
　・ サブウーハーの設定（➡ ***27*** ページ）
　・ スピーカーサイズ設定（➡ ***27*** ページ）
　・ スピーカーの距離（➡ ***28*** ページ）

*　米国パテントナンバー
5,848,391;　5,291,557;　5,451,954;
5,400,433;　5,222,189;　5,357,594;
5,752,225;　5,394,473;　5,583,962;
5,274,740;　5,633,981;　5,297,236;
4,914,701;　5,235,671;　07/640,550;
5,579,430;　08/678,666;　98/03037;
97/02875;　97/02874;　98/03036;
5,227,788;　5,285,498;　5,481,614;
5,592,584;　5,781,888;　08/039,478;
08/211,547;　5,703,999;　08/557,046;
08/894,844

サラウンドの使いかた

接続しているスピーカーの数や入力音声信号、スピーカー設定によって選べるサラウンドモードは異なります。

- サラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
- ソース（音源）が「DVD MULTI」のときは、サラウンドをお使いになれません。
- マルチチャンネルサラウンドについては、スピーカーの配置数（3ch以上）に関係なく選べますが、すべてのスピーカーを適切に接続、設定しないと、十分な効果を得ることができません。
- サラウンドモードを選んだあとの音量/音質の調節については、***41***、***42*** ページをご覧ください。

オートサラウンドの設定が「ON」のとき、次の信号が入力されると自動的にサラウンドモードを選ぶことができます。詳しくは「オートサラウンドの設定」（➡ *31* ページ）をご覧ください。

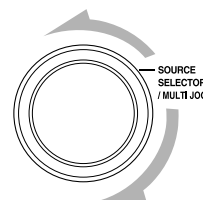
- マルチチャンネルデジタル音声信号
- Dolby Digital 2ch
- DTS 2ch
- MPEG-2 AAC 2ch
- マトリクス処理された2ch音声信号

サラウンドモードを選ぶ

1 本体のSURROUNDボタンを押す

MULTI JOGつまみがサラウンドモード設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回してサラウンドモードを選ぶ

つまみを回すごとごとにサラウンドモードが切り換わります。入力音声信号に対応したサラウンドを選ぶことができます。詳しくは、「選択できるサラウンドモード」（➡ *40* ページ）をご覧ください。

- サラウンド使用時にヘッドホンをお使いになると、「3DHEADPHONE」モードになります。

- リモコンの**サラウンド**ボタンを押しても選ぶことができます。

各種の設定をする

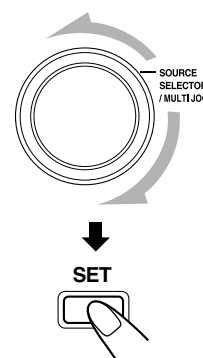
各サラウンドモードについて音質を調節することができます（➡ ***33***〜***36***ページ）。選んだサラウンドモードにより調節できる設定が異なります。

1 本体のADJUSTボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して調節する項目を表示させ、SETボタンを押す

SET

- MULTI JOGつまみを回すごとに調節する項目が切り換わります。

- 下記の項目はリモコンでも調節できます。

スピーカー出力レベルの調節	（➡ ***41***ページ）
エフェクトの調節	（➡ ***41***ページ）
センタートーンの調節	（➡ ***41***ページ）
ミッドナイトモードの調節	（➡ ***42***ページ）
イコライザーの調節	（➡ ***42***ページ）

サラウンドを使う（つづき）

選択できるサラウンドモード

入力信号と選択できるサラウンドモード

モード / 入力信号	サラウンドモード	
Dolby Digital EX*[1]	DOLBY D EX、DOLBY D	DAP モード（HALL 1/2、LIVE CLUB DANCE CLUB、PAVILION THEATER 1/2）
Dolby Digital (5.1チャンネル)*[1]		
DTS-ES Discrete*[1]	ES DISCRETE、DTS	
DTS-ES Matrix*[1]	ES MATRIX、DTS	
DTS (5.1チャンネル)*[1]	DTS、DTS NEO:6	
DTS 96/24	DTS、DTS NEO:6	
Dual Mono	DUAL MONO	
MPEG-2 AAC	AAC　DUAL MONO	
Dolby Digital (2チャンネル)	PLII MOVIE、PLII MUSIC NEO:6CINEMA、NEO:6 MUSIC	DAP モード MONO FILM ALL CH ST.
DTS (2チャンネル)		
リニアPCM		
アナログ		
MPEG-2 AAC(2チャンネル)		

接続しているスピーカーの数や、入力音声信号、スピーカー設定によって選べるサラウンドモードは異なります。
スピーカーサイズ設定（➡ ***27*** ページ）でサラウンドスピーカーを「**NO**」に設定していると、「**ALL CH ST.**」は選べません。
*[1] スピーカーサイズの設定（➡ ***27*** ページ）、6.1チャンネルサラウンドの設定（EX/ES）（➡ ***29***、***42*** ページ）によって、選べるサラウンドモードは異なります（上表参照）。

スピーカー設定、EX/ES設定によって選択できるサラウンドモード

入力信号	サラウンドバックスピーカー設定	EX/ES設定	サラウンドモード
Dolby Digital EX	SML/LRG	AUTO/ON	DOLBY D EX*[2]
		OFF	DOLBY D
	NO	AUTO/ON	DOLBY D (バーチャルサラウンドバック)
		OFF	DOLBY D
Dolby Digital	SML/LRG	ON	DOLBY D EX
		AUTO/OFF	DOLBY D
	NO	ON	DOLBY D (バーチャルサラウンドバック)
		AUTO/OFF	DOLBY D
DTS-ES Discrete	SML/LRG	AUTO/ON	ES DISCRETE
		OFF	DTS
	NO	AUTO/ON	DTS (バーチャルサラウンドバック)
		OFF	DTS
DTS-ES Matrix DTS-ES 96/24Matrix	SML/LRG	AUTO/ON	ES MATRIX
		OFF	DTS
	NO	AUTO/ON	DTS (バーチャルサラウンドバック)
		OFF	DTS
DTS 96/24	SML/LRG	ON	DTS NEO:6
		AUTO/OFF	DTS
	NO	ON	DTS (バーチャルサラウンドバック)
		AUTO/OFF	DTS

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定している場合でも、サラウンドスピーカーを使ってドルビーデジタルEX信号やDTS-ES信号などのサラウンドバックチャンネル信号を再生できます（バーチャルサラウンドバック）。
表示窓に**VIRTUAL SB**表示が点灯します。
*[2] EX/ES設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ソフトによってはサラウンドモードが「DOLBY D」になることがあります。

音量/音質を調節する

サラウンドモードを選んだあと、音量や音質を調節することができます。ここでは、リモコンで調節できる設定について説明します。リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に合わせてください。本体で操作できる機能については、「音量/音質の調節をする」(➡ ***33*** ～***36***ページ)をご覧ください。設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。そのときはもう一度操作をやり直してください。

スピーカー出力レベルの調節

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 テストトーンボタンを押す

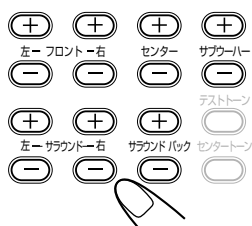
スピーカーサイズ設定で、「LRG」または「SML」に設定されているスピーカーから順番に2秒間ずつテストトーンが出力されます。1分間出力されるとソース表示に戻ります。

- テストトーンが出力される順序
  左フロントスピーカー➞センタースピーカー
  ➞右フロントスピーカー ➞右サラウンドスピーカー
  ➞サラウンドバックスピーカー ➞左サラウンドスピーカー
  ➞サブウーハー ➞始めに戻る

- ヘッドホンを使用しているときはテストトーンは出力されません。

3 調節するスピーカーの＋/－ボタンを押す

- ＋を押すと出力レベルが大きくなります。
- －を押すと出力レベルが小さくなります。
- 「－10」から「＋10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

[お買い上げ時の設定: 0dB]

フロント・左/右(＋/－)
：フロントスピーカーの出力レベルを調節します。

センター(＋/－)
：センタースピーカーの出力レベルを調節します。

サラウンド・左/右(＋/－)
：左右のサラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。

サラウンドバック(＋/－)
：サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。

サブウーハー(＋/－)
：サブウーハーの出力レベルを調節します。

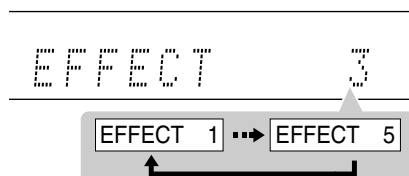
- **テストトーン**ボタンをもう一度押すとテストトーンが停止し、もとのソース(音源)表示に戻ります。
- 本体でも調節をすることができます。詳しくは「スピーカー出力レベルの調節」(➡ ***34*** ページ)をご覧ください。

エフェクトの調節

DAP(ディエーピー)モード(HALL 1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER 1/2)、MONO FILM(➡ ***38*** ページ)が動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 サウンドボタンを押してからエフェクトボタンを押して調節する

エフェクトボタンを押すごとに数字が大きくなります。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。

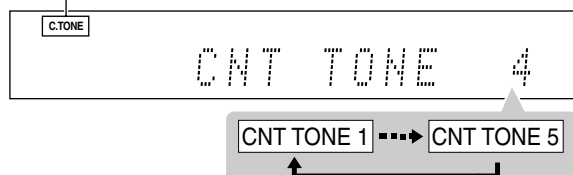
センタートーンの調節

サラウンドモードの動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 センタートーンボタンを押す

ボタンを押すごとに数字が大きくなります。

C. TONE表示(センタートーンが「3」のときは表示されません)

C.TONE
CNT TONE 4
CNT TONE 1 ➞ CNT TONE 5

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。

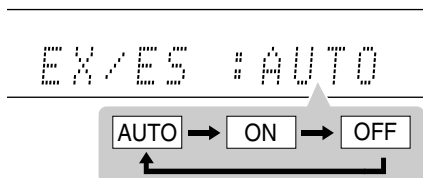
- センタースピーカーのサイズ設定が「NO」に設定されているときは調節できません(➡ ***27*** ページ)。

音量/音質を調節する（つづき）

6.1チャンネルサラウンドの設定

6.1チャンネルサラウンドモードの動作を設定します。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 EX/ESボタンを押す

AUTO	：ドルビーデジタルEX信号またはDTS-ES信号が入力されたときは、6.1チャンネルサラウンドで再生します。5.1チャンネル以下の音声信号が入力されたときは5.1チャンネルで再生します。［お買い上げ時の設定］
ON	：サラウンドモードで「DOLBY D EX」、「ES DISCRETE」または「ES MATRIX」が動作中に、5.1または6.1チャンネルの音声が入力されると、6.1チャンネルで再生します。
OFF	：6.1チャンネルサラウンドを使用しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1チャンネルサラウンドで再生します。

- スピーカーサイズ設定でサラウンドスピーカーが「NO」のときは「NO SURR SP」と表示され、この設定をすることはできません。
- サラウンドを使用しているときにこの設定を切り換えると、サラウンドモードが切り換わることがあります。

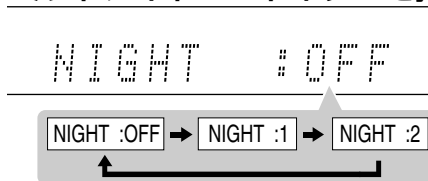
- 設定を「AUTO」にしているときに、ドルビーデジタルEX信号を持っているソフトによっては6.1チャンネルサラウンド再生ができない場合があります。

ミッドナイトモードの設定

ダイナミックレンジ（最大音声と最小音声の差）を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよくサラウンドを楽しめます。

- 再生するソース（音源）によって、効果の大きさは異なります。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

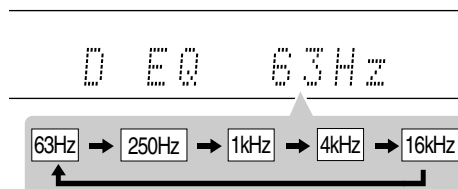
2 ミッドナイトモードボタンを押す

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。［お買い上げ時の設定］
1	：ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	：ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます（夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます）。

イコライザーの調節

中心となる周波数帯域のレベルを調節して、よりよい音質でお楽しみいただけます。

- 調節できる周波数：63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

1 サウンドボタンを押してからEQ周波数ボタンを押して、調節したい周波数を表示させる

EQ周波数ボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

2 EQレベル⊕または⊖ボタンを押す

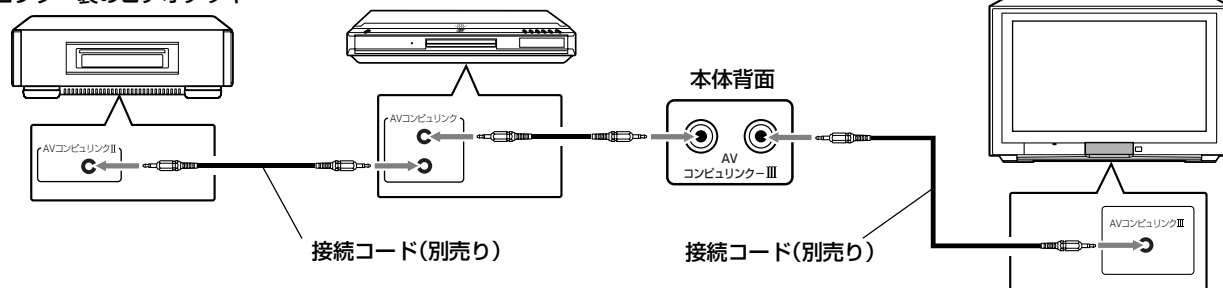
⊕を押すとレベルが大きく、⊖を押すとレベルが小さくなります。

EQ表示

- 音質を調節すると、「0」以外の値のときに表示窓にEQ表示が点灯します。
- 「−8」から「+8」の範囲で2dB単位で調節できます。

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
ビクター製の各機器を別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。接続したビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

AVコンピュリンクの接続

ご注意

- AVコンピュリンクでは、DBS入力端子に接続しているBS/CSチューナーを操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- DVDレコーダーのリモコンモードは、お買い上げ時の設定にしてください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDレコーダー/プレーヤーの自動再生

DVDレコーダー/プレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に「**入**」になり、ソース（音源）として「**DVD**」または「**DVD MULTI**」が選ばれます。
音声出力の設定ができるDVDレコーダー/プレーヤーでは、2チャンネル再生に設定されているときは「**DVD**」が選ばれます。5.1チャンネルのアナログマルチチャンネル再生に設定されているときは「**DVD MULTI**」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に「**入**」になり、テレビの入力が適切なビデオ入力に切り換わります。

テレビの自動入力切り換え

本機のソース（音源）を「**DVD**」にすると、テレビの入力が自動的に切り換わります。

- S映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ1**」に切り換わります。
- 映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ2**」に切り換わります。(ただし、「**ビデオ2**」にBSチューナー入力が接続されているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
- D4映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子に接続しているときは「**ビデオ3**」に切り換わります(テレビ側が対応している場合)。

自動電源「入」⟷「切」

モニター出力端子やVTR入力端子に接続されているテレビやビデオデッキの電源が、本機の電源と連動して「**入**」⟷「**切**」します。

本機の電源を「入」にすると：

- 前回選択していたソース（音源）が「**DVD**」のときは、DVD入力端子に接続されているDVDレコーダー/プレーヤーとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース（音源）が「**VTR**」のときは、ビデオデッキとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース（音源）が「**DBS**」または「**TV**」のときは、テレビの電源のみが自動的に「**入**」になります。

本機の電源を「切」にすると：
DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、テレビの電源が自動的に「**切**」になります。

お知らせ

- ビデオデッキで録画中に本機の電源を「**切**」にしても、ビデオデッキの電源は「**切**」にならず録画し続けます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、本機の映像出力の設定を行う必要があります。本機とテレビの接続に合わせて、正しく設定してください。
- AVコンピュリンクⅢ対応以前の製品をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機のリモコンでビクター製のテレビやビデオ機器を操作することができます。

リモコンで操作する前に･･･

- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製ビデオデッキを操作する場合は、VTR入力(再生)端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。
- 日本ビクター製のDVDレコーダーには、4種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製DVDレコーダーを操作する場合は、DVDレコーダーのリモコンモードをお買いあげ時の設定に合わせてください。
- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のSOURCE SELECTOR/MULTI JOGつまみでソース(音源)を選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース(音源)機器選択ボタンを使って選んでください。

DVDレコーダー/プレーヤー

リモコンのモード切換スイッチをDVDレコーダーのときは「**DVR**」に、DVDプレーヤーのときは「**DVD**」に合わせます。

DVR/DVD ⏻/I ：DVDレコーダー/プレーヤーの電源を「**入**」⟷「**切**」します。
▶ ：再生を始めます。
■ ：再生(または録画)を停止します。
II ：再生(または録画)を一時停止します。もう一度再生(または録画)を始めるときは▶ボタンを押します。
I◀◀ ：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
▶▶I ：次のチャプターの頭へスキップします。
◀◀ ：チャプターを後へ戻します。
▶▶ ：チャプターを先へ進めます
カーソル(▲、▼、▶、◀)、決定
：メニュー操作をします。
トップメニュー、メニュー
：DVDソフトのメニューを表示させます。
画面表示 ：メニューバーを表示させます。

●DVDレコーダー/プレーヤー操作用ボタン

設定 ：初期設定メニューを表示させます。
↺ ：再生中に10秒前の画面に戻って、もう一度再生します。
音声 ：音声の設定を選ぶメニューを表示させます。
字幕 ：字幕の設定を選ぶメニューを表示させます。
アングル ：アングルの設定を選ぶメニューを表示させます。
リターン ：前のメニュー画面に戻ります。

●DVDプレーヤー操作用ボタン

1〜10、0、+10：チャプターまたはトラックを選びます。

●DVDレコーダー操作用ボタン

チャンネル(+/−)
：チャンネルを変更します。
録音ポーズ ：録画を一時停止します。再び録画を始めるときは、もう一度**録音ポーズ**ボタンを押します。
DVD/HDD ：DVD/HDDレコーダーを切り換えます(HDD搭載機種のみ)。
↷ ：再生中に30秒後の画面にスキップします。
録画モード ：録画速度を設定します。
1〜9、0 ：チャプターまたはトラックを選びます。

DVDレコーダー/プレーヤーによってはこれらの機能がお使いになれない場合があります。その場合にはDVDレコーダー/プレーヤーに付属のリモコンをお使いください。

テレビ

リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に合わせます。

TV ⏻/I ：テレビの電源を「**入**」⟷「**切**」します。
テレビ音量(+/−) ：音量を調節します。
テレビ/ビデオ ：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−) ：チャンネルを変更します。
1〜12 ：受信チャンネルを選びます。

デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキ

リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に合わせます。

VTR ⏻/I ：ビデオデッキの電源を「**入**」⟷「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶ ：再生を始めます。
■ ：再生(または録画･早送り･早戻し)を停止します。
II ：再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは、▶ボタンを押します。
◀◀ ：テープを巻き戻します。
▶▶ ：テープを早送りします。
チャンネル(+/−)
：ビデオデッキのチャンネルを変更します。
1〜9、0 ：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。
録音ポーズ ：録画を一時停止します。再び録画を始めるときは、もう一度**録音ポーズ**ボタンを押します。

ご注意

- DVDレコーダー/プレーヤーを操作したあとは、リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に戻しておいてください。戻さないと本機が操作できないことがあります。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作することができます。
本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。
• 接続した機器の操作については、お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意
• リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーコードを設定してください。

テレビ

リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に合わせます。

1. TV ⏻/Iボタンを押したまま･･･
TVボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(テレビ)」をご覧ください。
例: お使いのテレビが松下製(23)のとき

TV ➡ 2 ➡ 3 と押す

2. TV ⏻/Iボタンを離す

3. TV ⏻/Iボタンを押して設定を確認する

テレビの電源を「入」⟷「切」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

• デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

テレビを操作するボタン

TV ⏻/I :テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量(+/−) :テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ :テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−) :テレビの受信チャンネルを変更します。
1〜12 :テレビの受信チャンネルを選びます。

●メーカーコード番号一覧(テレビ)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	28、29
NEC	15
コルティナ	31、32、33、34
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
ソニー	11、12、13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27

[お買いあげ時の設定:01]

ビデオデッキ

リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に合わせます。

1. VTR ⏻/Iボタンを押したまま･･･
VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)」をご覧ください。
例: お使いのビデオデッキが松下製(24)のとき

VTR ➡ 2 ➡ 4 と押す

2. VTR ⏻/Iボタンを離す

3. VTR ⏻/Iボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

ビデオデッキを操作するボタン

VTR ⏻/I :ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。
VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

► :再生を始めます。
■ :再生(または録画･早送り･早戻し)を停止します。
II :再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
◄◄ :テープを巻き戻します。
►► :テープを早送りします。
チャンネル(+/−)
:チャンネルを変更します。

●メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	30、31、32、33、34
NEC	16、17、18、19
コルティナ	36
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29

[お買いあげ時の設定:01]

DVDプレーヤー

リモコンのモード切換スイッチを「DVD」に合わせます。

1. DVR/DVD ⏻/I ボタンを押したまま･･･
DVR/DVDボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)」をご覧ください。

例： お使いのDVDプレーヤーが松下製(06)のとき

DVD ➡ 0 ➡ 6と押す

2. DVR/DVD ⏻/I ボタンボタンを離す

3. DVR/DVD ⏻/I ボタンを押して設定を確認する

DVDプレーヤーの電源を「入」⟺「切」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

DVDプレーヤーを操作するボタン

DVR/DVD ⏻/I
：DVDプレーヤーの電源を「入」⟺「切」します。

DVR/DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

►：再生を始めます。
■：再生を停止します。
II：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
◄◄：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
►►：次のチャプターの頭へスキップします。
メニュー：DVDソフトのメニューを表示させます。
カーソル(▲、▼、►、◄)、決定
：メニュー操作をします。
1〜9、0：チャプターまたはトラックを選びます。

●メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01
オンキョー	10、11
ケンウッド	08
サムスン	12
ソニー	02
東芝	03
パイオニア	04
日立	14
フィリップス	15
松下	06
三菱	09
ヤマハ	13

[お買いあげ時の設定：01]

ご注意

• DVDプレーヤーを操作したあとは、リモコンのモード切換スイッチを「AUDIO/TV/VTR」に戻しておいてください。戻さないと本機が操作できないことがあります。

故障かな?と思う前に

故障かな？と思うまえに、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ ***48*** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ ***20*** ページ)
電源「**入**」時にスタンバイランプが点灯し、すぐ電源が「**切**」になる。	大音量のために本機に過負荷がかかっている。	1. 再生中のソース(音源)機器を止める。 2. 本機の電源を入れて音量を調節する。
	スピーカーコードがショート(短絡)したために本機に過負荷がかかっている。	電源コードを抜き、スピーカーの接続を確認する。スピーカーコードがショート(短絡)していないときは販売店に問い合わせる。
	本機に異常な電圧がかかっている。	操作する前に電源コードを抜いて販売店に問い合わせる。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが正しく操作できない。	リモコンが正しく設定されていない。	ソース(音源)機器選択ボタンまたはサウンドボタンを押す。
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。障害物がある。	リモコン受光部に向けて約5ｍ以内で障害物を避けて送信する。(➡ ***17*** ページ)
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ ***17*** ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ ***17*** ページ)
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
	モード切換スイッチの位置を操作する機器に合わせていない。	モード切換スイッチを正しい位置に合わせる。
テレビまたはビデオ機器が操作できない。	入力したメーカーコード番号が間違っている。	正しいメーカーコード番号を入力する。(➡ ***45***、***46*** ページ)
	ソース(音源)機器選択ボタンを押していない。	操作したい機器のソース(音源)機器選択ボタンを押してから、操作する。
	モード切換スイッチが正しく設定されていない。	モード切換スイッチを正しく設定する。(➡ ***44*** ページ)

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ ***11*** ページ)
	オーディオコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。(➡ ***12***、***14***〜***16*** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	消音機能が働いている。	消音ボタンを押して消音機能を解除する。(➡ ***20*** ページ)
	アナログ/デジタル音声入力が正しく選ばれていない。	正しいモードを選ぶ。(➡ ***21*** ページ)
	TVダイレクトが働いている	TVダイレクトを解除する。(➡ ***22*** ページ)
サラウンドモードを選ぶことができない。	ソース(音源)が「DVD MULTI」に設定されている。	ソース(音源)を「DVD MULTI」以外に切り換える。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。(➡ ***13***〜***16*** ページ)
	間違ったソース(音源)が選ばれている。	正しいソース(音源)を選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	ソース(音源)機器の映像接続とテレビの映像接続の端子が違う。	ソース(音源)機器とテレビの映像接続の端子を合わせる。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

47 ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	AUDIO/VIDEO コントロールアンプ
型　　名	AX-F10
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138) 52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
東北			
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182) 32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
関東・甲信越			
群馬	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
	土浦 S.S.	(029) 821-8756	土浦市富士崎1-10-1
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 246-2588	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03) 3251-2128	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 3727-9385	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 3874-5231	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048) 553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	首都圏サービスセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044) 975-1879	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平塚 S.C.	(0463) 36-2160	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下下条2-1366-1
	上越 S.S.	(025) 545-1734	上越市五智1-11-2
長野	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21
東海			
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市中田本町62-31 中田ビル1階
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 51-5931	岡崎市柱曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593) 52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
北陸			
富山	富山 S.C.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市西開発3-211
近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.C.	(0742) 35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792) 34-3833	姫路市中地南町11-1
中国			
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
	下関 S.S	(0832) 51-1040	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売（株） 松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売（株） 鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
四国			
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0404

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様
・本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

項目			
映像入力端子			**入力感度 / インピーダンス**
	映像(コンポジット)	DVR/DVD、VTR、DBS	: 1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR/DVD、VTR、DBS	
		Y入力	: 1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C入力	: 0.286 V(p-p)/75Ω
	D4映像	DVR/DVD、VTR、DBS	
		Y出力	: 1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R出力	: 0.7V(p-p)/75Ω
映像出力端子			**出力レベル / インピーダンス**
	映像(コンポジット)	DVR、VTR、モニター	: 1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR、VTR、モニター	
		Y出力	: 1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C出力	: 0.286V(p-p)/75Ω
	D4映像	モニター	
		Y出力	: 1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R出力	: 0.7V(p-p)/75Ω
実用最大出力(JEITA)	**フロント**	100W+100W (6Ω)	
	センター	100W (6Ω)	
	サラウンド	100W+100W (6Ω)	
	サラウンドバック	100W (6Ω)	
音声入力端子			**入力感度 / インピーダンス**
	アナログ入力	DVR/DVD、VTR、DBS、TV、DVD MULTI	: 330mV/47kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1(DVR/DVD)	: 0.5V(p-p)/75Ω
		光デジタル2(DBS)/3(VTR)/4(TV)	: −21dBm ～ −15dBm
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)	
音声出力端子			
	アナログ出力	DVR、VTR、モニター	
		サブウーハー	
		ヘッドホン(ø3.5)	
	デジタル出力	PCM/STREAM(光)	: −21dBm ～ −15dBm
その他の端子		AVコンピュリンク-Ⅲ (×2)	
S/N比		DVD MULTI	: 87dB ('66IHF)
周波数特性		DVR、TV、DBS、VTR、DVD(MULTI)	: 20Hz～20kHz (±1dB)
その他			
	スリープタイマー	10、20、30、40、50、60、70、80、90分	
	電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用	
	消費電力	電源「入」時　110W	
		電源「切(待機)」時　1W	
	最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	435mm×70mm×329.5mm	
	質　量	約6.3kg	

- JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定方法による数値です。
- 付属品については***2*** ページをご覧ください。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

別売りのオプション品

- オーディオコード　: CN-510E（ピンプラグ×2～ピンプラグ×4）（1m）
　: CN-168G（ピンプラグ×2～ピンプラグ×4）（1.5m）
- DVD用オーディオコード　: CN-D210E（ピンプラグ×6～ピンプラグ×6）（1m）
- ビデオコード　: VX-110E（1m）
- Sビデオコード　: VC-S110E（1m）
- D端子コード　: VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）（1m）
　: VX-DS210（Dプラグ～ピンプラグ×3）（1m）
- 同軸デジタルコード　: CN-D110E（1m）
- 光デジタルケーブル　: XN-110SA（1m）
- 接続コード　: CN-120A（1.5m）

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
(品番は変更されることがあります)

ご相談や修理は

**ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。**

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
49ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120−2828−17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0404MWMMDWJEIN